

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2022年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業61、卸売業28、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：181社（66.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一 業況はプラスで推移するものの、採算は悪化傾向が続く。各種経費の上昇、従業員不足が課題一
前年同期（2021年10月～12月）と比べた今期（2022年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（2023年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは4.0で、前年同期と比べ22.0ポイント上昇しました。業況は2期連続、売上は3期連続のプラス水準で推移しましたが、採算はマイナス水準で推移しました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題です。

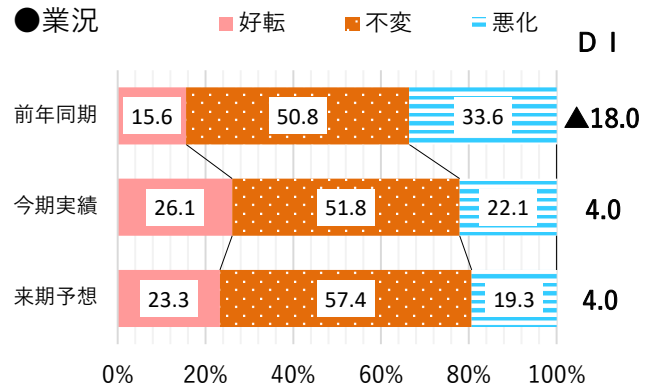
業種別DIは、製造業が同1.7ポイント低下の▲13.5となりました。売上DIが大幅に上昇し、プラスに転じましたが、採算DIはマイナス水準で推移しました。食料品では約7割の企業で売上が増加しましたが、約半数の企業で採算が悪化しました。卸売業は同8.0ポイント低下の▲19.1となりました。売上DIはプラス幅を拡大しましたが、採算DIがマイナスに転じました。全ての企業で仕入単価が上昇し、8割超の企業が販売単価を引き上げました。小売業は同8.8ポイント低下の▲23.1となりました。売上DIと採算DIはともに上昇しました。全ての大型店で売上が増加し、食肉小売、菓子製造小売、コンビニでも売上の増加傾向が見られた一方で、自動車小売や家電量販店では売上の減少傾向や業況の悪化傾向が見られました。運輸・倉庫業は同50.2ポイント上昇の5.8となり、売上DIと採算DIも上昇しました。道路旅客運送は7割超の企業で売上が増加しましたが、全ての企業で従業員が不足しています。道路貨物運送は6割超の企業が運送料金を引き上げました。倉庫は入庫量DIと出庫量DIともに大幅に上昇しました。観光業は同98.7ポイント上昇の55.8となりました。全国旅行支援事業による国内旅行需要の高まりや、外国人観光客の入国制限の撤廃などにより、売上DIと採算DIも大幅に上昇し、プラスに転じました。外国人客数DIが大幅に上昇し、2019年度・第1四半期以降のプラス水準となりました。約6割の企業で従業員が不足し、全ての企業で仕入単価が上昇しました。サービス業は同7.3ポイント低下の8.7となりました。売上DIは低下したもののプラス水準で推移し、採算DIはマイナス幅が拡大しました。飲食店では8割の企業で売上が増加しましたが、全ての企業で仕入単価が上昇しており、業況に変化はありませんでした。建設業は同30.4ポイント上昇の13.0となり、2019年度・第3四半期以来のプラス水準となりました。売上DIはプラスに転じ、採算DIはマイナス幅を大幅に縮小しました。一般土木工事業では売上の増加傾向、仕入単価の上昇が見られます。

来期の業況判断DIは4.0で、横ばいを予想しています。新型コロナウイルスの影響が弱まり、冬の観光シーズン到来による人流の増加が期待されますが、全ての業種で仕入単価や燃料費の上昇が予想されています。冬期が閑散期にあたる企業では、売上の減少が予想されています。

業況、売上、採算

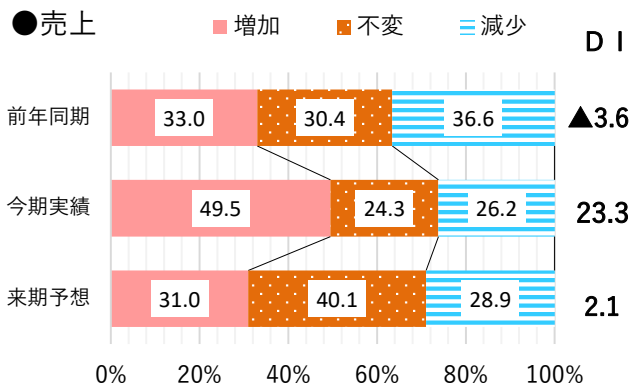
今期（2022.10～12）の業況判断DIは4.0で、前年同期(2021.10～12)と比べ22.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.1～3）は、業況の横ばいを予想しています。



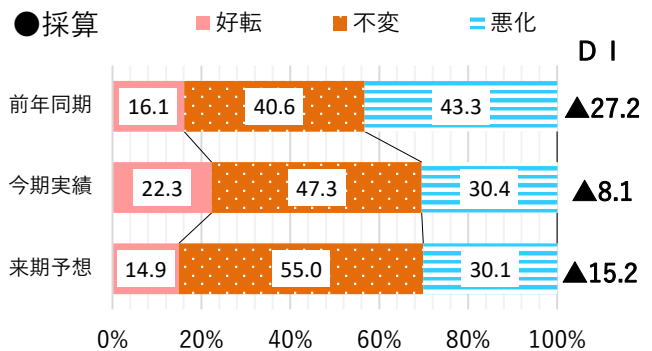
今期の売上DIは23.3で、前年同期と比べ26.9ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

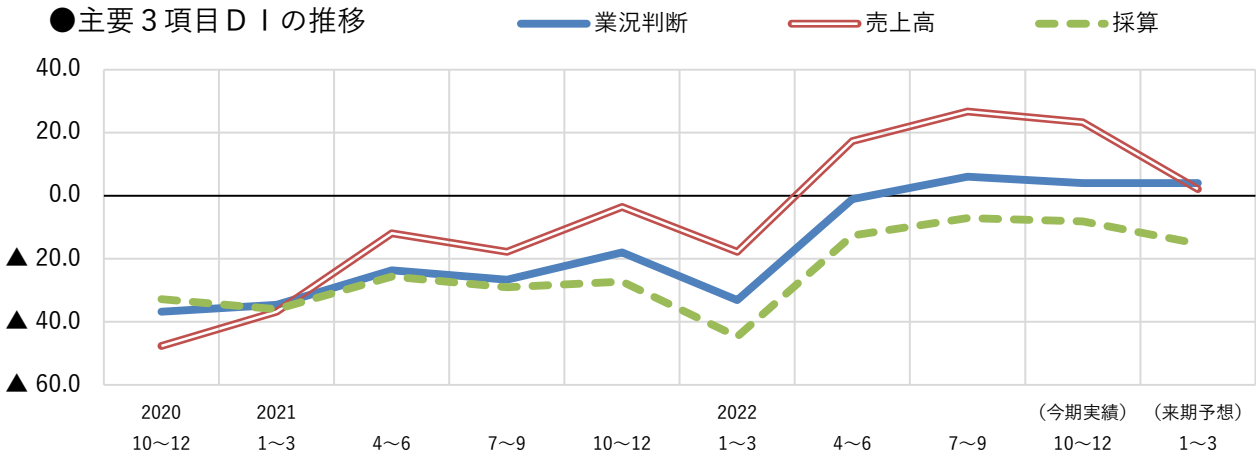


今期の採算DIは▲8.1で、前年同期と比べ19.1ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



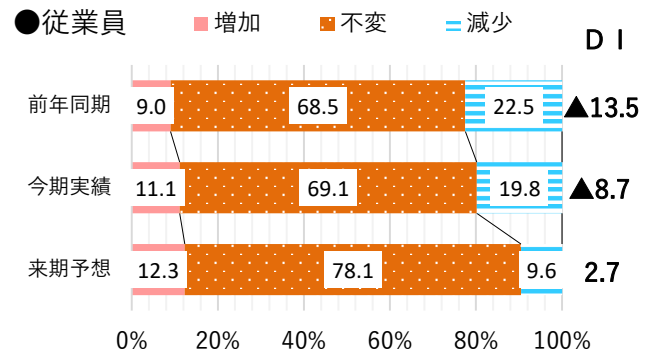
●主要3項目DIの推移



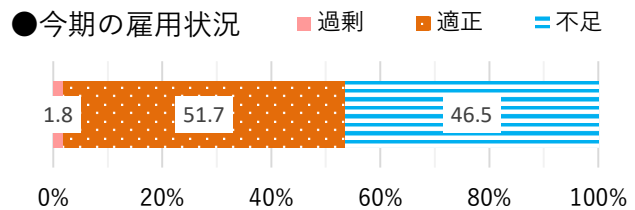
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.7で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.8%、適正であると回答した企業の割合は51.7%、不足していると回答した企業の割合は46.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、43.6%を占めました。

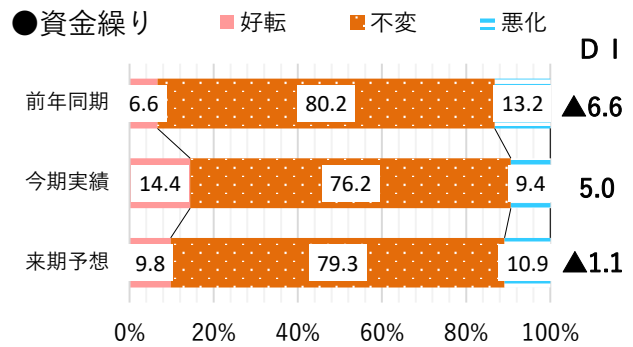
回答全体では、49.7%が適正規模の従業員を確保できていると回答しましたが、ほぼ同じ割合の48.0%は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	8
	不足	14
不変だった	過剰	4
	適正	79
	不足	39
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	34

資金繰り、設備投資

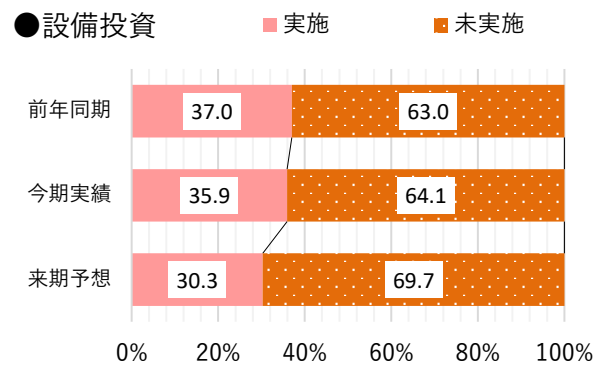
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ11.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった181社の35.9%にあたる65社が実施、前年同期と比べ1.1%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、30.4%にあたる55社が設備投資を計画していると回答しています。

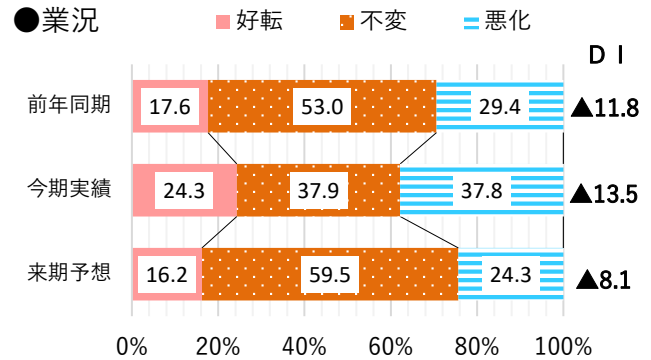


製造業

業況、売上、採算

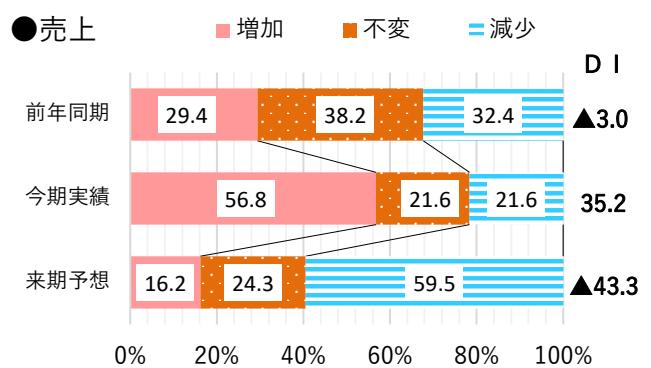
今期(2022.10~12)の業況判断DIは▲13.5で、前年同期(2021.10~12)と比べ1.7ポイント低下しました。

来期(2023.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



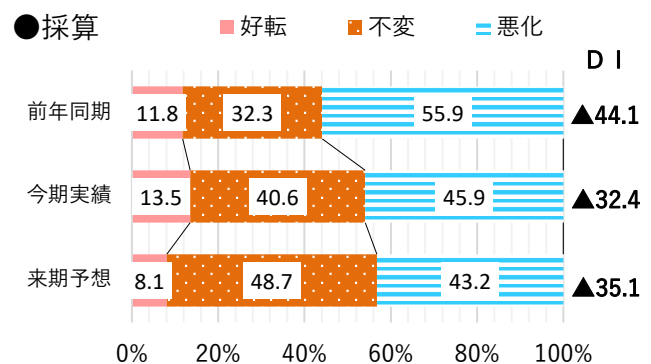
今期の売上DIは35.2で、前年同期と比べ38.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上が大幅に減少しマイナスに転じると予想しています。

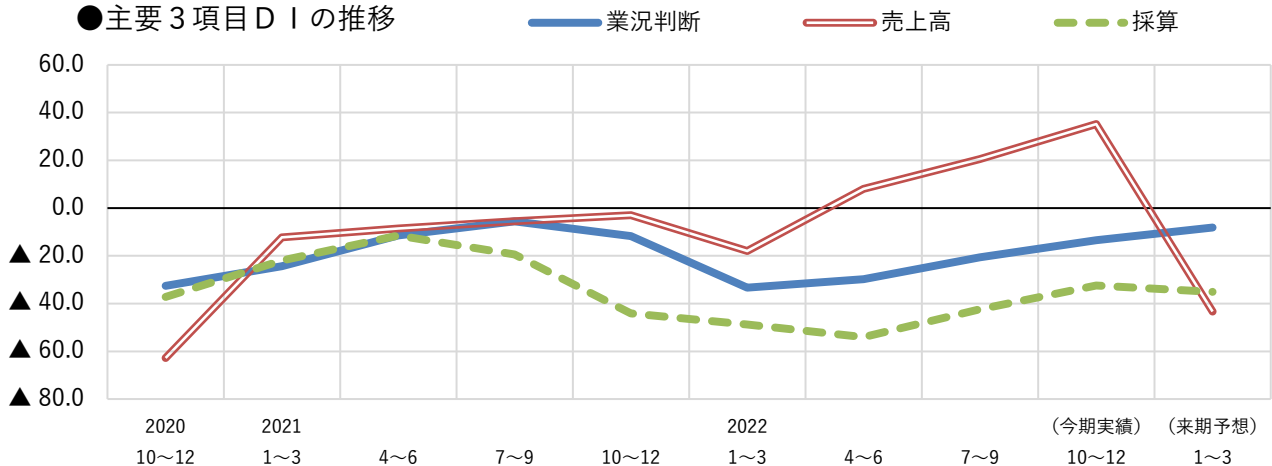


今期の採算DIは▲32.4で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



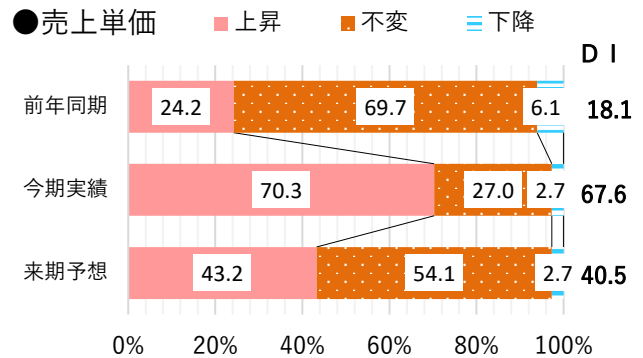
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

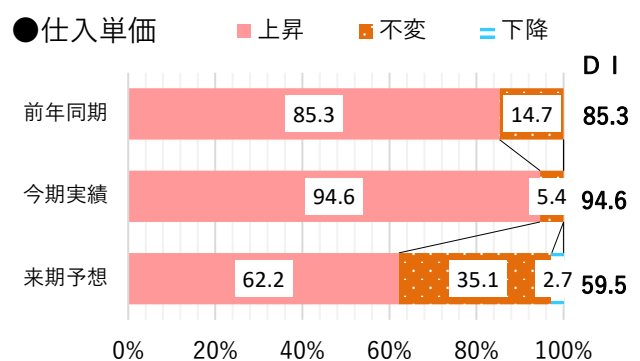
今期の売上単価DIは67.6で、前年同期と比べ49.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



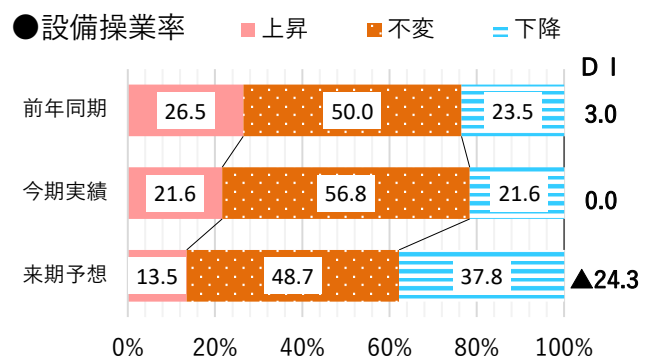
今期の仕入単価DIは94.6で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の設備操業率DIは0.0で、前年同期と比べ3.0ポイント低下しました。

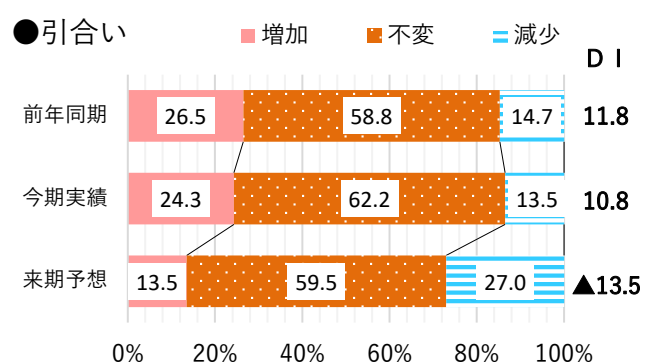
来期は、設備操業率がマイナスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは10.8で、前年同期と比べ1.0ポイント低下しました。

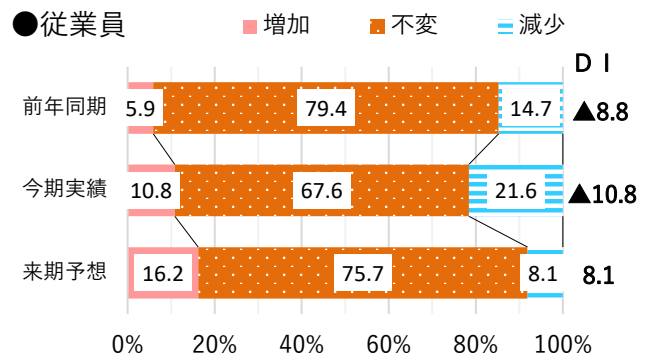
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



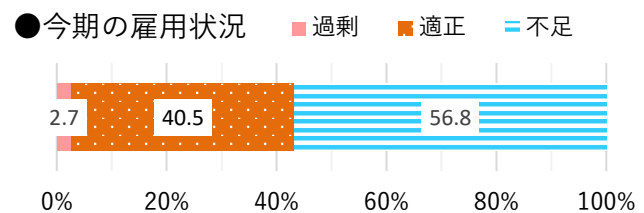
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.8で、前年同期と比べ2.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.7%、適正であると回答した企業の割合は40.5%、不足していると回答した企業の割合は56.8%でした。



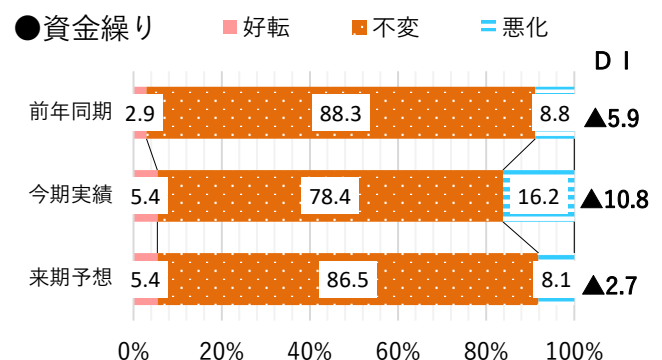
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、35.1%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でしたが、全体としては半数以上の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	8

資金繰り、設備投資

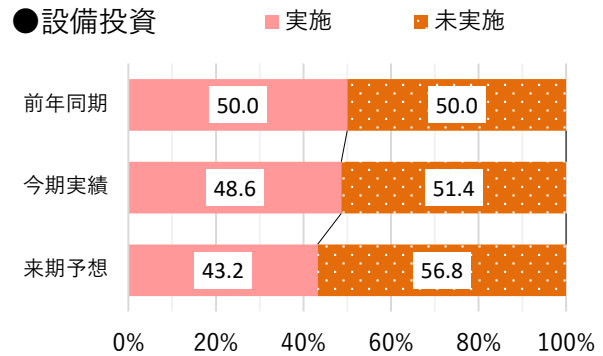
今期の資金繰りDIは▲10.8で、前年同期と比べ4.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



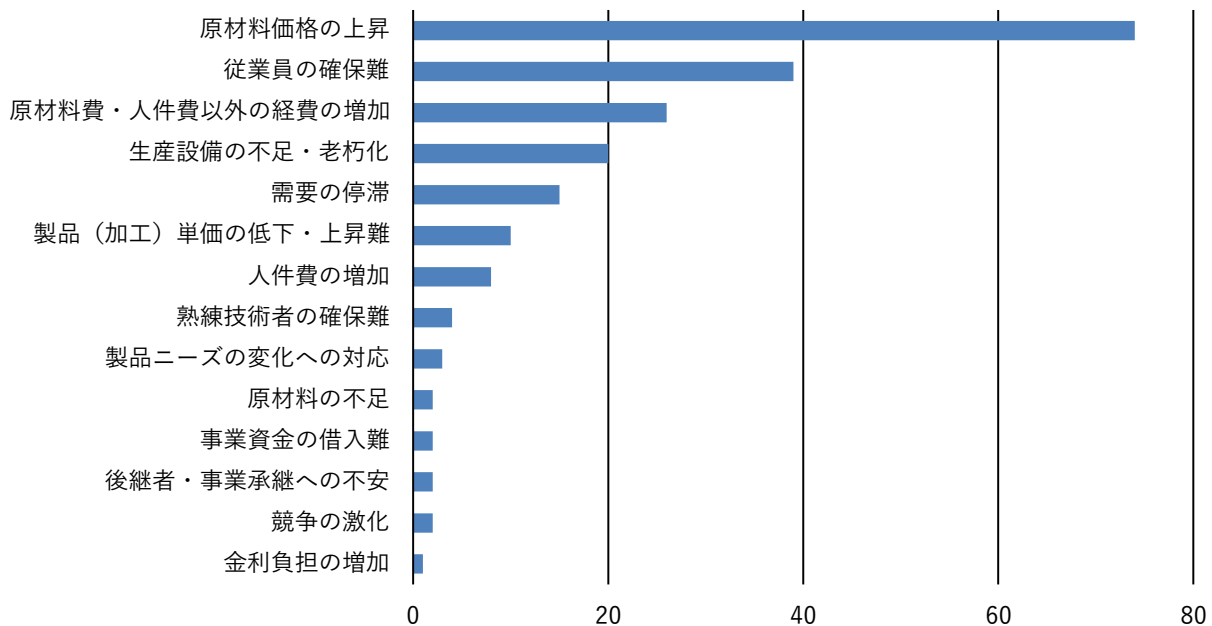
設備投資を実施した企業の割合は48.6%で、前年同期と比べ1.4%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.2%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 取引先の輸入品（水産品）がロシアから例年通り輸入されており、年度当初からの原材料不足の心配はなくなったが、原材料価格、副資材単価が20～40%上昇しており、年明けから4月にかけて再度商品価格の改定を予定している。（食料品）
- 昨年同期比の売上は増加したが、原材料、資材、燃料の価格高騰で利益の確保が難しい。工場勤務の人材確保に苦労しており、開発部門の人件費が増加している。（食料品）
- 主力製品の原料（数の子）の価格上昇と円安により、仕入価格が高騰した。ある程度の販売数量は確保できたが、量目調整が必要となり、売上が減少した。（食料品）
- 訪日客の需要が徐々に回復しており、売上は増加したが、人件費や原材料、製造コストが高騰したため採算は悪化した。（食料品）
- 原材料価格が上昇した。（食料品）

- 製品価格の値上げや新酒の発売で売上は確保できたが、値上げに伴う販売数量の減少が心配だ。(飲料)
- 客先の都合により製作の遅延が生じており、予定の売上に達していない。原材料以外にも様々な物の価格が高騰しており、価格転嫁を急がなければならない。特に既契約分の対応が課題だ。(金属製品)
- 材料費の高騰に応じて価格転嫁をしたため、売上が増加したが、価格上昇分の全てを転嫁できている訳ではないため、業況は悪化した。(金属製品)
- 売上は前年同期比で多少増加したが、利益率は資材費の高騰により低下した。(金属製品)
- 市場が停滞している。原材料費が増加し、売上は減少した。(金属製品)
- 原材料やエネルギーの価格高騰が利益を圧迫している。(金属製品)
- 原材料価格の値上げ分は製品の販売価格に転嫁できたが、電気料金が昨年同月比で50%値上がりし、その分は自社負担となった。ユーティリティ設備に係る分として価格交渉を進めるが、反応は芳しくない。製造業の就職希望者が減少しており、求人に応募がない。最低賃金の上昇も負担だ。(プラスチック)
※ユーティリティ設備：工場を稼働させるために必要な電気や水、燃料などを供給する設備
- 値上げ交渉は決着しつつあるが、10月以降の電力料金上昇分、物流費上昇分、人件費上昇分はほぼ未決着だ。10~12月の売上高は前年比115%にとどまった。(プラスチック)
- 売上が増加し、従業員を雇用した。(プラスチック)
- 売上の見通しが立たない。業界全体で受注が減っていると思う。(機械器具)
- 円安や世界情勢の悪化に伴う原材料不足、仕入価格の上昇により、以前よりも利益の確保が難しいため、業況は悪化している。(ゴム製品)
- 積雪量次第で状況が変わる。1~2月の大雪を見越して引き合いが増えている。(ゴム製品)
- 仕入単価の上昇に伴い収益が悪化している。(家具建具)
- 増収増益となったが、原材料費を含む諸費用が高騰したため、収益率は上昇しなかった。(紙製品)

[来期の業況について]

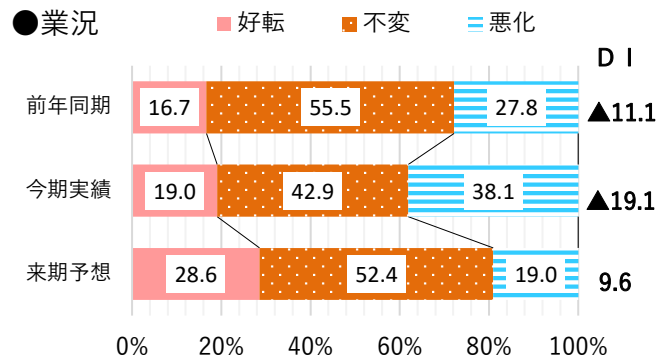
- 取引先と信頼関係を構築し、計画に基づいたブレの無い生産を目指す。コストが増加した項目は取引先と交渉して費用の圧縮を図る。人材は外国人雇用に依存していくと思われる。(食料品)
- 各部署の人材確保と社員教育の見直しによって、製品の品質向上を図る。製品価格の改定により、利益の確保を目指す。(食料品)
- 販売価格の改定により売上は若干増加するが、仕入価格、経費の増加がそれを上回るため、採算は悪化するだろう。(食料品)
- 閑散期につき主力製品の売上が減少するため、その他加工品の販売が中心となる。(食料品)
- 売上の増加傾向が続くと思うが、採算はさらに悪化すると思う。(食料品)
- 原材料価格の上昇傾向が続くと思われる。(食料品)
- イベントに合わせた販促策により売上を確保したい。(飲料)
- 1~6月頃まで仕事が決まっているため一安心している。最大の課題は正規雇用の確保だ。既にベトナムからの実習生を4人雇用しているが、正規雇用者がいなければ技術力を維持できない。(金属製品)
- 売上と販売数量の増加が落ち着くと思う。光熱費と運賃の高騰により、業況は悪化する。(金属製品)
- 新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻の影響が続き、需要が伸び悩むと思う。(金属製品)
- 今期同様、製作の遅延による売上の減少が予想される。(金属製品)
- 為替135円/\$になれば、原材料仕入価格は徐々に下落すると思われるが、原材料のメーカーは電力料金の上昇分を販売価格に転嫁する方針を打ち出しており、当社の採算は期待するほど好転しないだろう。製品の価格改定が完了すれば、売上は前年度比で140%まで増加する見込みだ。(プラスチック)
- 閑散期のため、売上は今期比で約3割の減少を見込む。電気料金はさらに値上がりすると思われる。コスト削減等企業努力は続けるが、明るい兆しは見えないと思う。(プラスチック)
- 受注のピークを過ぎるため、受注の減少を見込む。(プラスチック)
- 前期同様、仕入単価の上昇による収益の悪化が予想される。(家具建具)
- 原紙の二次値上げに対応し、製品を値上げできるかどうか収支を左右する。(紙製品)

卸 売 業

業況、売上、採算

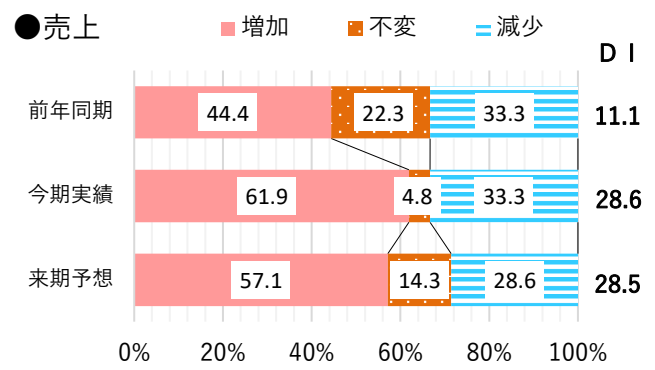
今期(2022.10~12)の業況判断DIは▲19.1で、前年同期(2021.10~12)と比べ8.0ポイント低下しました。

来期(2023.1~3)は、業況がプラスに転じると予想しています。



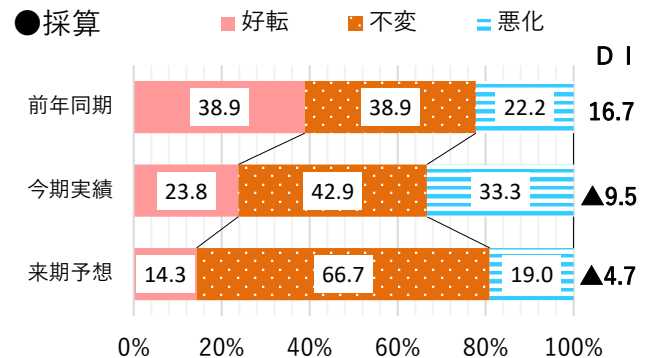
今期の売上DIは28.6で、前年同期と比べ17.5ポイント上昇しました。

来期は、売上のほぼ横ばいを予想しています。

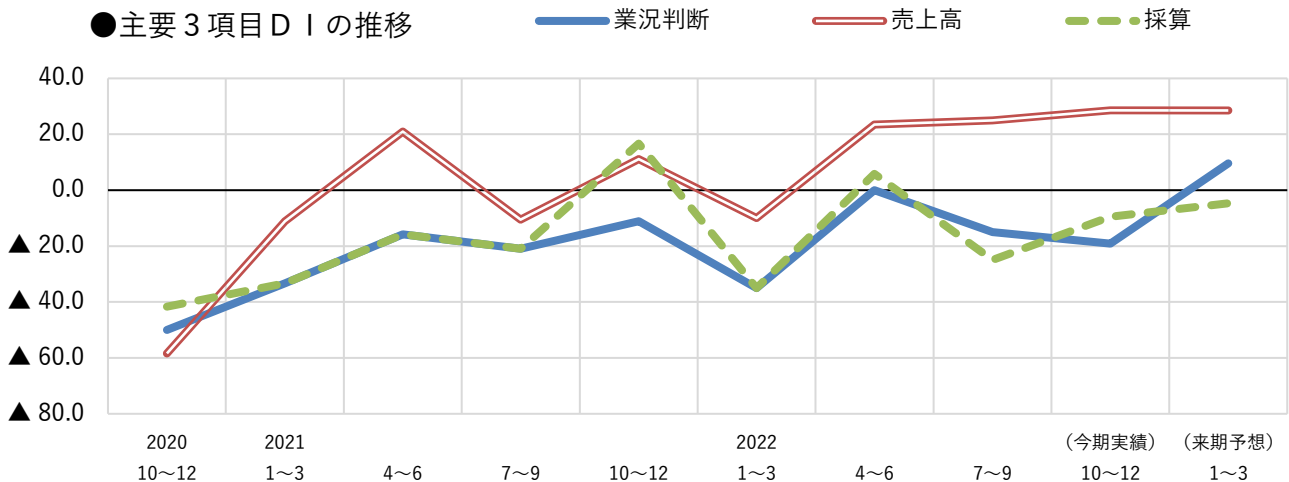


今期の採算DIは▲9.5で、前年同期と比べ26.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



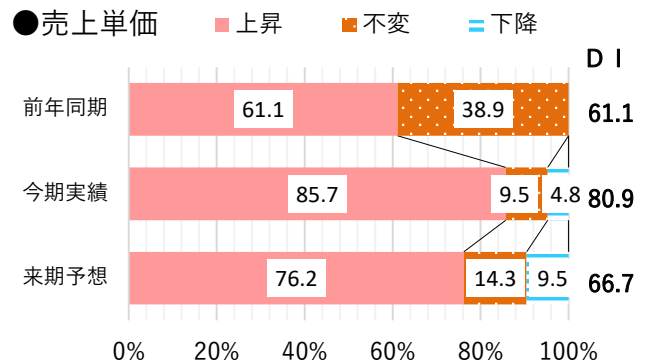
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

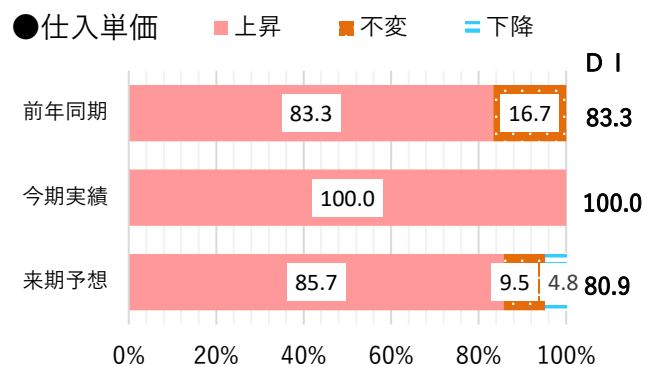
今期の売上単価DIは80.9で、前年同期と比べ19.8ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ16.7ポイント上昇しました。

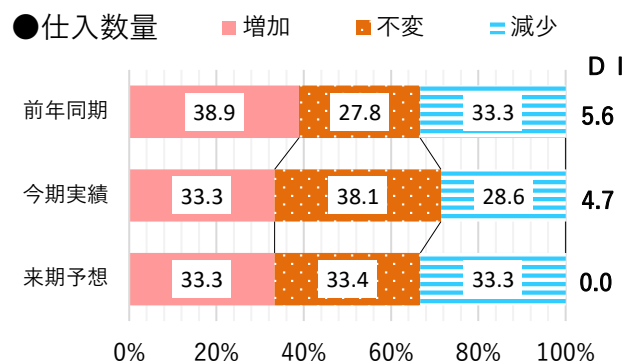
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

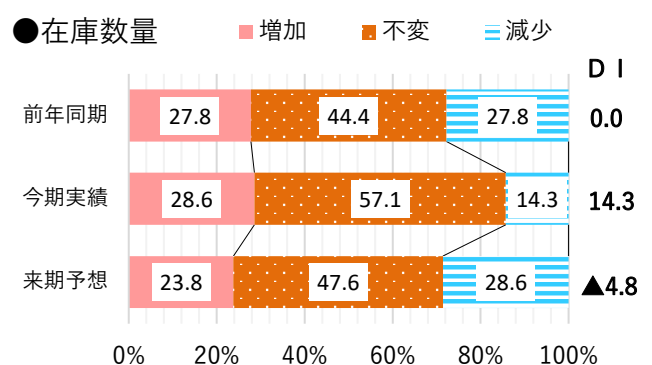
今期の仕入数量DIは4.7で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、仕入数量の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

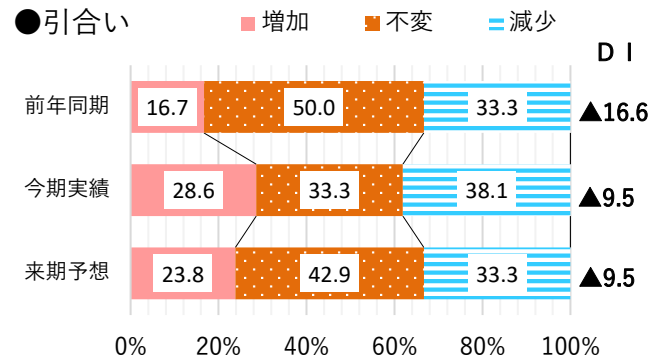
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲9.5で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

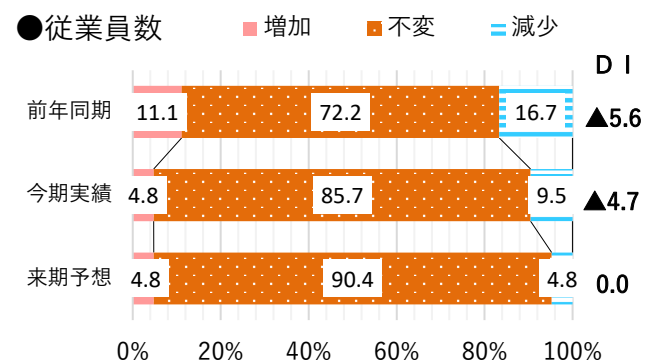
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



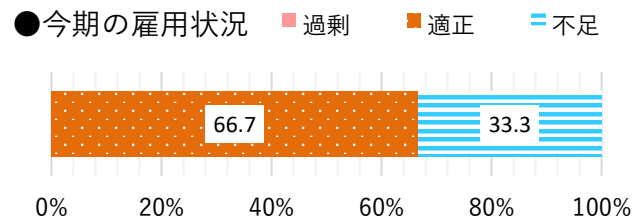
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.7で、前年同期と比べ0.9ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



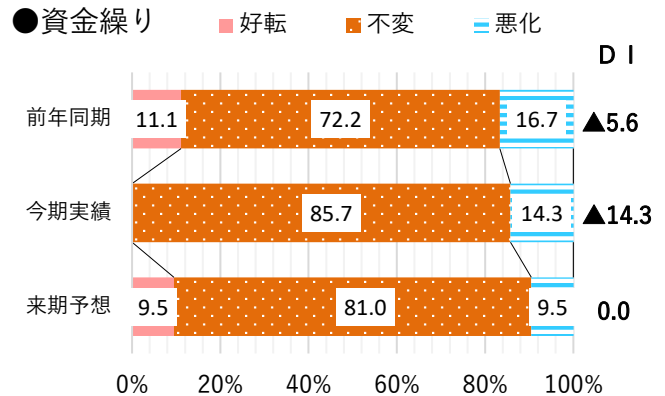
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の66.6%を占めており、不足と回答した企業は約3割でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	14
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

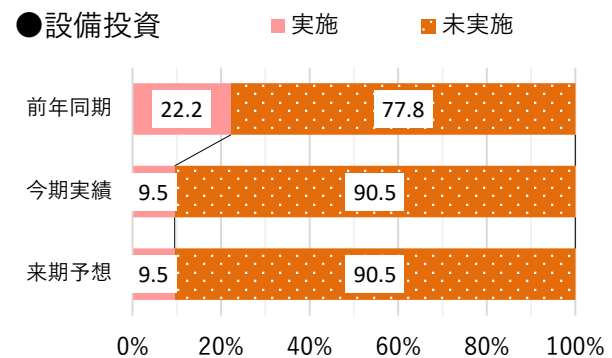
今期の資金繰りDIは▲14.3で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



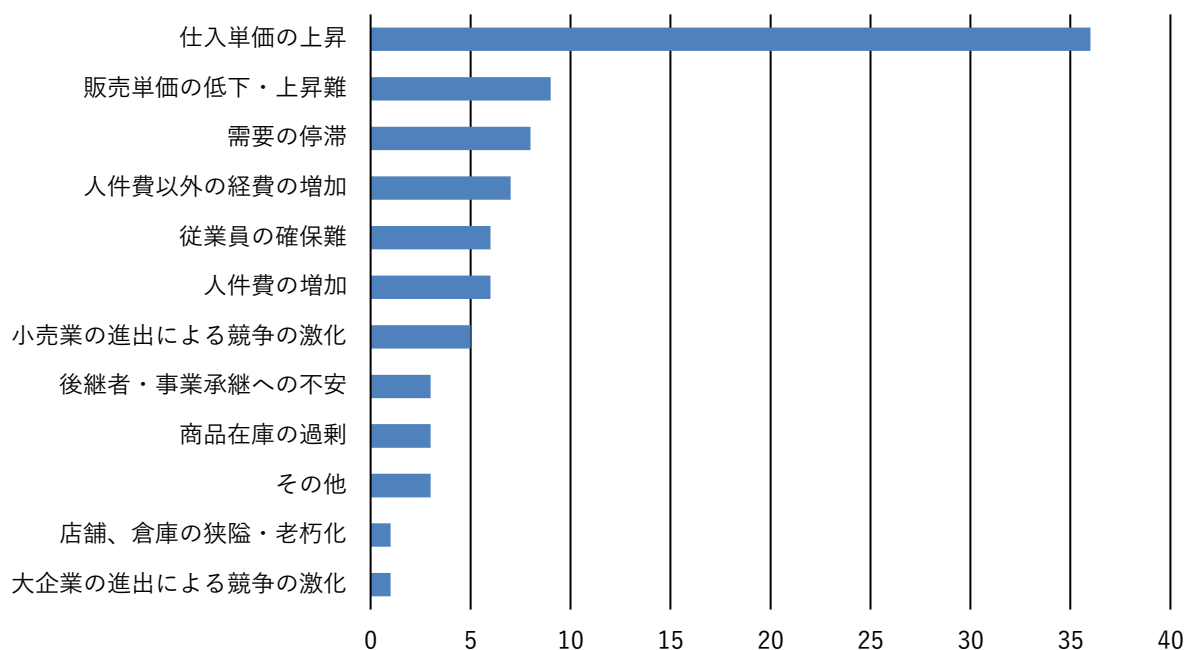
設備投資を実施した企業の割合は9.5%で、前年同期と比べ12.7%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「倉庫」(同位)でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は9.5%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「販売単価の低下・上昇難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 商品仕入額の値上げや、原材料不足により仕入が困難な状況が続き、年末に向けての見通しが立たない。
(食料・飲料卸売)
- メーカーで新車の生産が遅れていることから、車を買わずに車検の更新をする顧客が多く、部品の売上は安定しているが、車の流通が滞る状況は好ましくない。(自動車部品)
- コロナ禍による売上の減少と、仕入価格の上昇による利益の減少で不況だった。(事務用品)
- 多くの商品で仕入価格が上昇したが、価格転嫁ができず苦労している。(建築材料)
- 昨年度の雪害の影響で、夏以降の外装工事が例年より多かった。(建築材料)
- 石油製品の高騰により業況は悪化した。(石油卸売)
- 商品の値上げが多かった。(包装資材卸売)
- 仕入価格は上昇を続けている。価格転嫁時の適正な利益設定が難しい。(塗料卸売)

[来期の業況について]

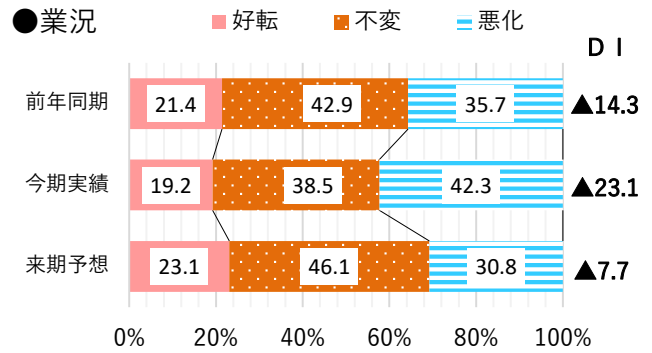
- 仕入価格の上昇に歯止めが利かず、厳しい年になるだろう。(食料・飲料卸売)
- 仕事の流れ、車の流通が改善しなければ好転しない。売上は降雪量に左右される。(自動車部品)
- 新型コロナウイルス流行の影響はないと思われる、売上、利益の増加に期待する。(事務用品)
- 閑散期のため、業況の悪化を見込む。(建築材料)
- 石油製品価格の上昇が少し落ち着くと思われる。(石油卸売)
- 原材料の値上げ傾向が落ち着くまで予想は難しい。(包装資材卸売)
- 原材料仕入価格の上昇が続くと思われる。(塗料卸売)

小 売 業

業況、売上、採算

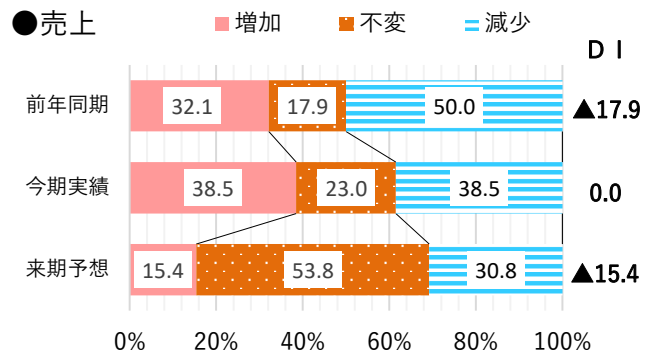
今期(2022.10~12)の業況判断DIは▲23.1で、前年同期(2021.10~12)と比べ8.8ポイント低下しました。

来期(2023.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



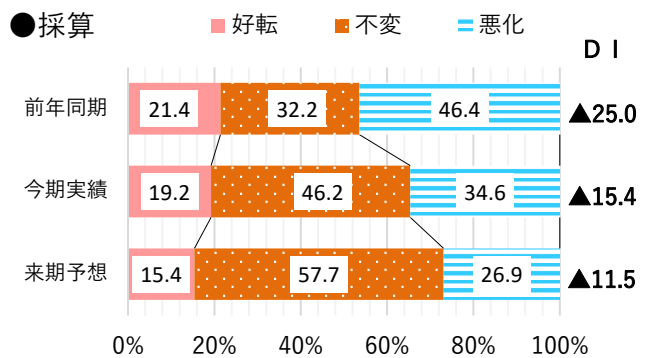
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ17.9ポイント上昇しました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

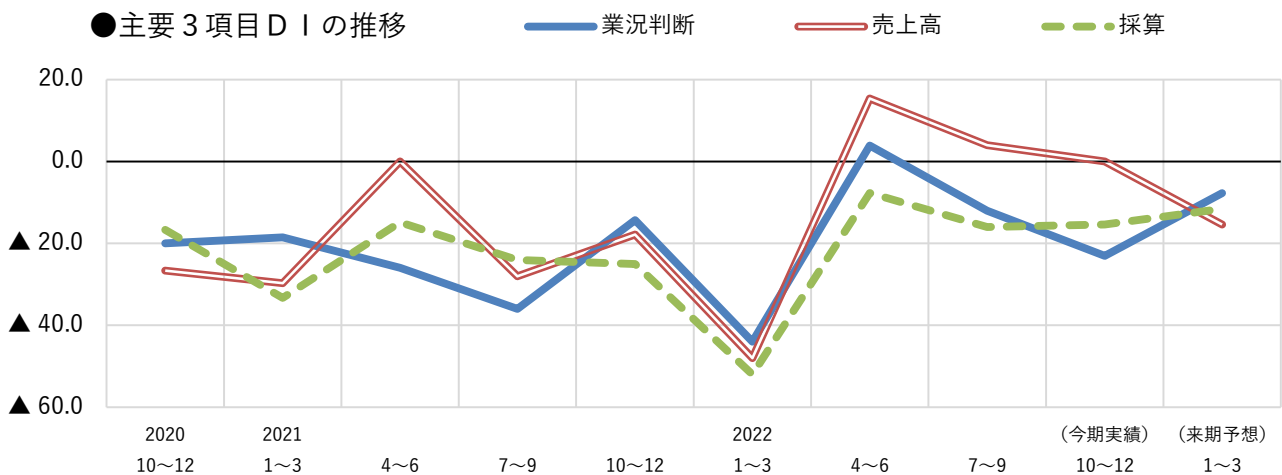


今期の採算DIは▲15.4で、前年同期と比べ9.6ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



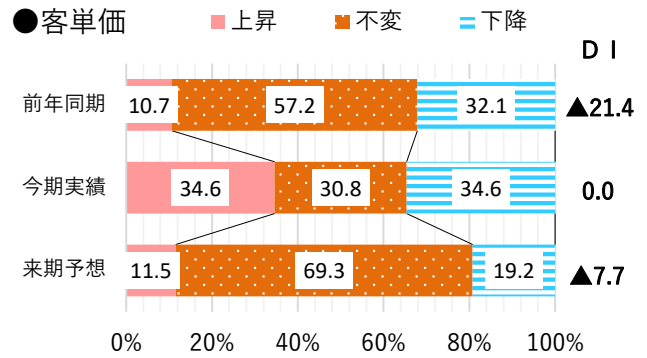
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

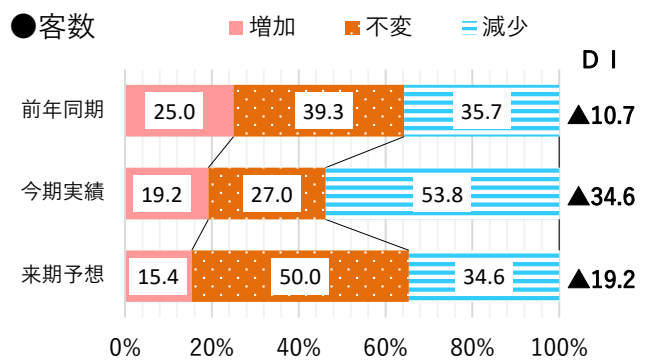
今期の客単価DIは0.0で、前年同期と比べ21.4ポイント上昇しました。

来期は、客単価がマイナスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲34.6で、前年同期と比べ23.9ポイント低下しました。

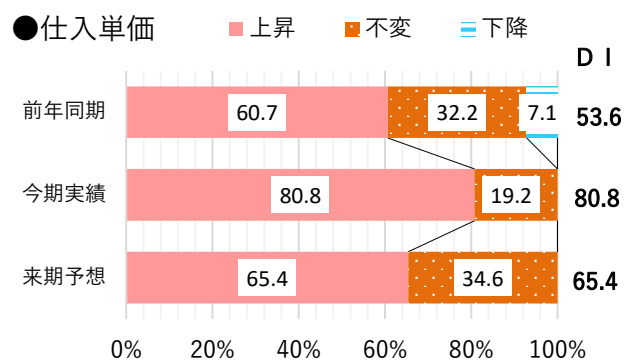
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

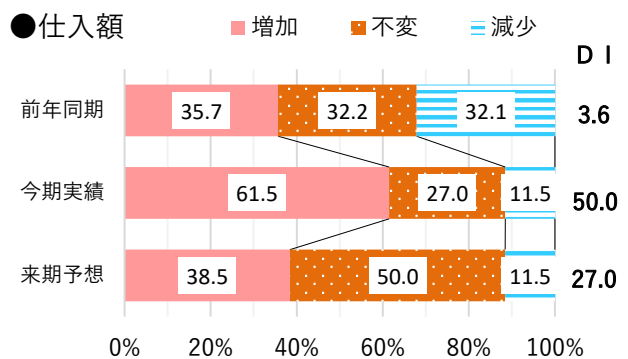
今期の仕入単価DIは80.8で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



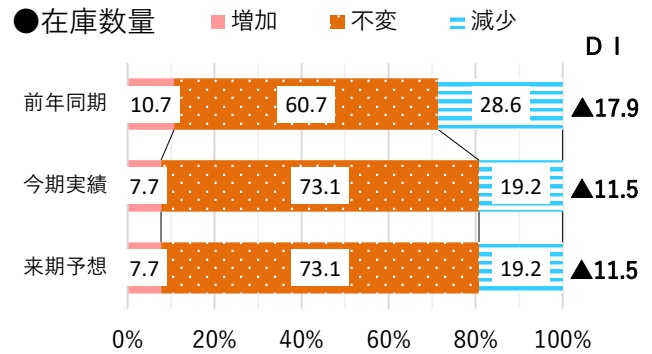
今期の仕入額DIは50.0で、前年同期と比べ46.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲11.5で、前年同期と比べ6.4ポイント上昇しました。

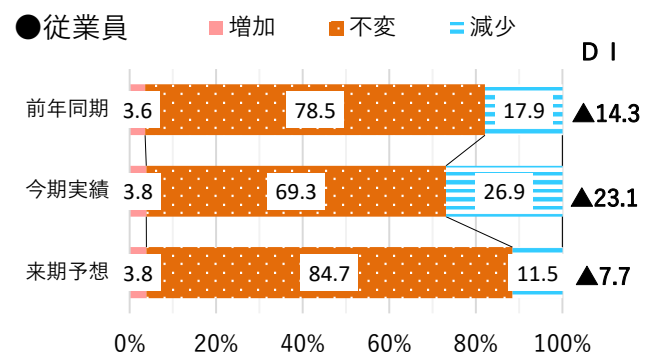
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



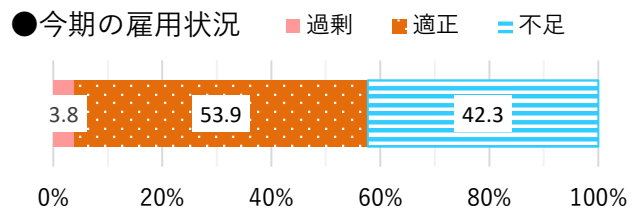
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲23.1で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.8%、適正であると回答した企業の割合は53.9%、不足していると回答した企業の割合は42.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、46.1%を占めています。

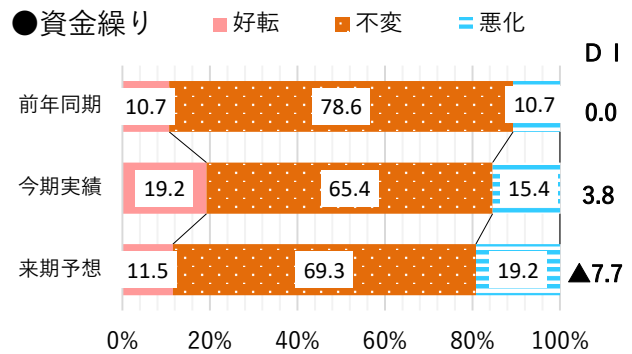
小売業全体では、適正規模の雇用が確保されている企業が53.8%、従業員が不足している企業が42.3%となりました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

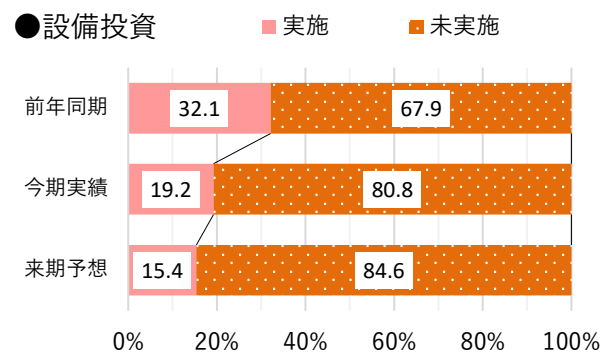
今期の資金繰りDIは3.8で、前年同期と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



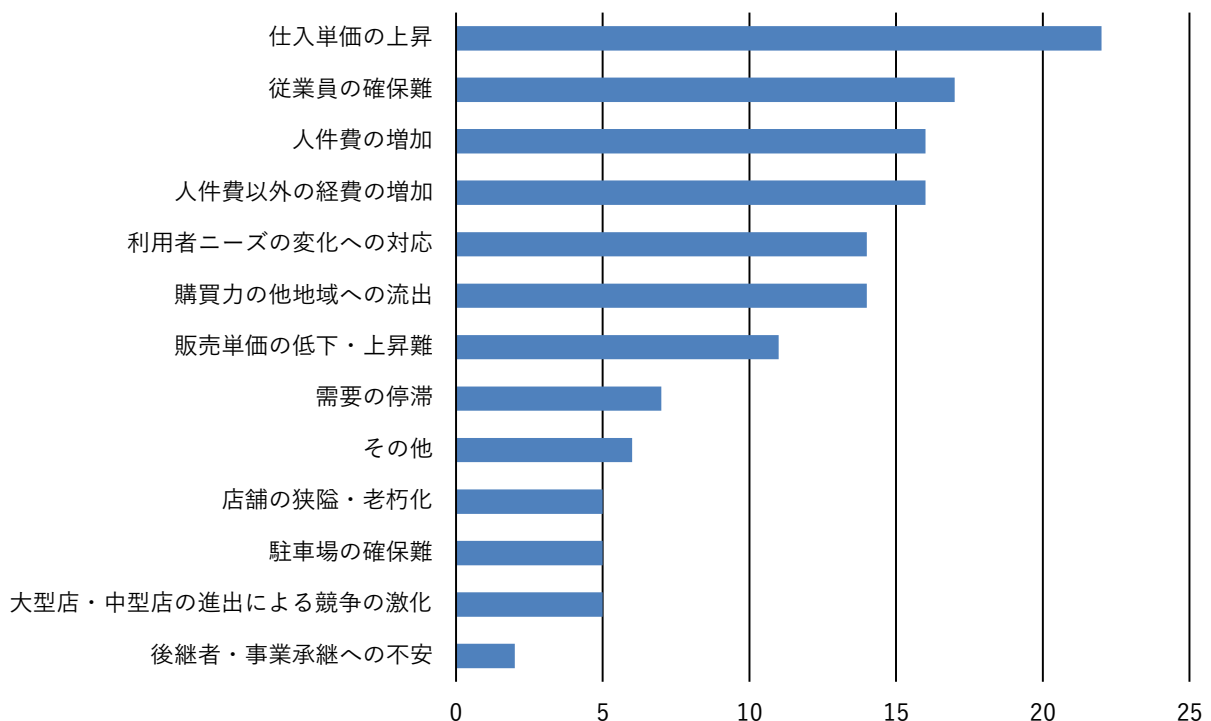
設備投資を実施した企業の割合は19.2%で、前年同期と比べ12.9%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「販売設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は15.4%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料や包装資材、光熱費等の値上げが止まらず来期には価格の見直しも考えなければならない状況だ。少しずつ客数が回復しているのに利益が上がらず、頭を痛めている。(菓子製造小売)
- 不安定な商品供給や売上減少の可能性を見込んで、年度当初に経費を大幅に削減しておいたため収益が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できていない。(衣服・身の回り品小売)
- 店舗数の増加により売上が増加している一方で、人材不足が続いている。(携帯電話小売)
- 昨年度は新型コロナウイルス流行の影響で、電車や飛行機等公共交通機関の利用を避け、自動車を利用する人が多かったため売上が増加した。旅行や外食を控えた分、自動車などの高額商品の購入が増えたことも影響したと思う。今期は新型コロナウイルスの流行が弱まったことで、自動車以外にお金を使う人が増え、売上の減少につながった。(自動車小売)
- 長納期対応のための無駄な経費等の増加が負担になっている。(自動車小売)
- 在庫の動きが良く、売上につながった。(自動車小売)
- 物価高の影響で出費を抑えたいお客様が多く、長年使用している物もまだ使えると考えて買い控えをしているようだ。客単価は下がっている。(家電量販店)
- 販売単価の引き上げと客数の増加で売上は確保できている。仕入価格の上昇の影響はあるが、販売単価やSKUの調整で商品売り切っているため、収益は安定している。(大型店)
※SKU (Stock Keeping Unit) : 受発注や在庫管理を行う際の最小の管理単位
- 売上と客数は、今年6月の食料品売り場のリニューアルにより好転した。定年による退職者の増加が見込まれるため、従業員を募集しているが確保できていない。(大型店)
- 売上高と客数は微増で、外国人を含む観光客は増加傾向にある。最低賃金の改定に合わせ、既に最低賃金を上回っている従業員も賃金引き上げの対象とした。(大型店)
- コロナ禍により高まったホームセンター需要が低下しつつあり、円安による物価高の影響も感じている。(ホームセンター)
- 日用品、たばこの値上げによって客単価が上昇したが、コロナ禍を含む外部環境の変化による客数減少で相殺された。最低賃金や仕入単価の上昇で経費も増加し、状況が改善する要因はない。(コンビニ)
- 午前6時～9時勤務の従業員確保が特に困難だ。最低賃金は920円だが、時給を1,100円まで引き上げて募集をかけても応募がない。(コンビニ)
- 仕入単価が上昇しているため、販売価格への転嫁など対策を考えている。(ドラッグストア)
- コロナ禍においても利益を落とさず、健闘できていると思う。仕入単価が上昇しており、増益が難しい。(家具・建具・畳小売)
- 去年同期から大きな変化はない。(燃料小売)

[来期の業況について]

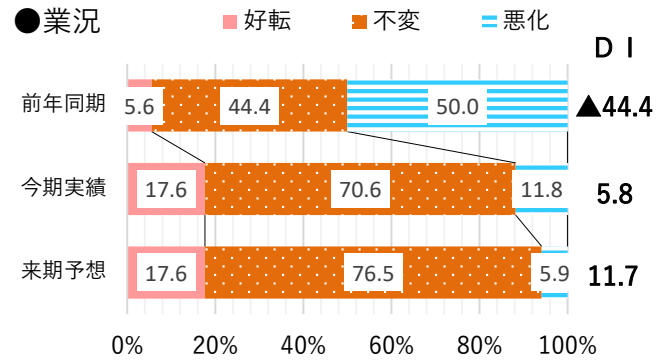
- 閑散期のため、いかに利益を上げられるかを考えたい。(菓子製造小売)
- 仕入価格の上昇傾向が続くと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 利益の確保を重視したい。(衣服・身の回り品小売)
- 全般的に物価が上がるため、中盤以降は経済が回りだし、多少好転すると思われる。(自動車小売)
- 物価高騰による厳しい状況を見込むが、商品の提案や品揃えの工夫によって解決を図る。(家電量販店)
- インバウンド需要が高まり、売上が増加する。中国の出国制限が解除されれば、売上は倍増するだろう。市内の人口減少やバスの減便、運賃の値上げにより、市内客の取り込みは一層難しくなる。(大型店)
- 人件費、光熱費等の経費負担は今期同様に厳しくなる。売上が伸長する見込みはない。(大型店)
- 売上や客数は不変または減少を予想する。(大型店)
- 競合店の出店に伴う売上の減少を見込む。円安の影響も続くと思われる。(ホームセンター)
- 仕入単価の上昇が続くが、販売価格への転嫁は難しい。(コンビニ)
- 電気代の上昇や賃金の引き上げにより、経費の増加が見込まれる。小樽市には小売業への支援を望む。(ドラッグストア)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

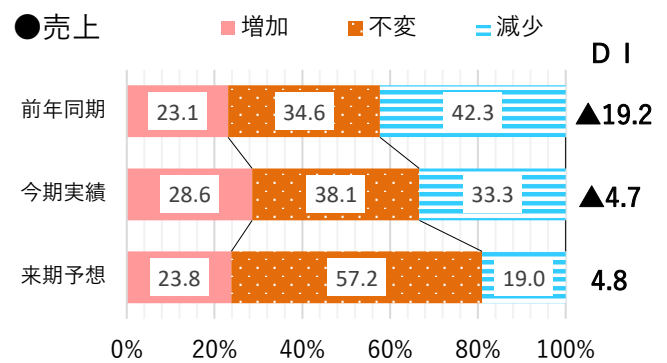
今期（2022.10～12）の業況判断DIは5.8で、前年同期（2021.10～12）と比べ50.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.1～3）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



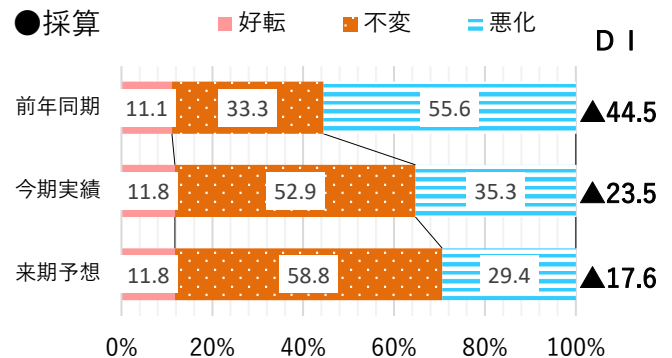
今期の売上高DIは▲4.7で、前年同期と比べ14.5ポイント上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

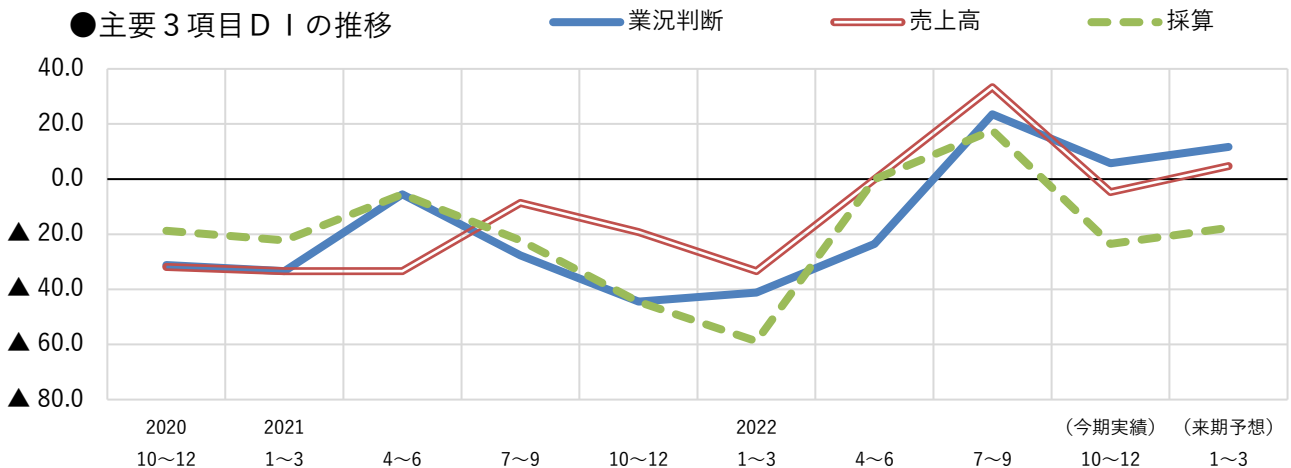


今期の採算DIは▲23.5で、前年同期と比べ21.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



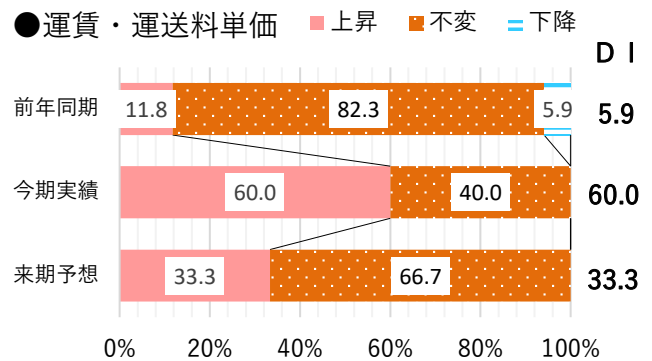
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

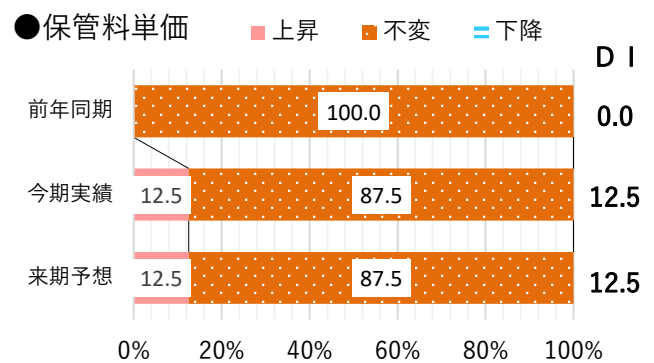
今期の運賃・運送料単価DIは60.0で、前年同期と比べ54.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

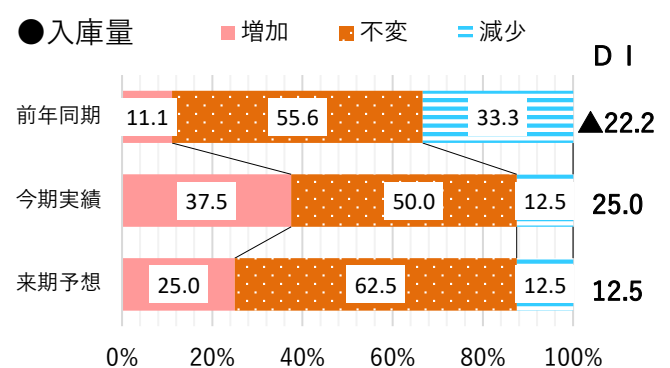
来期は、保管料単価の横ばいを予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

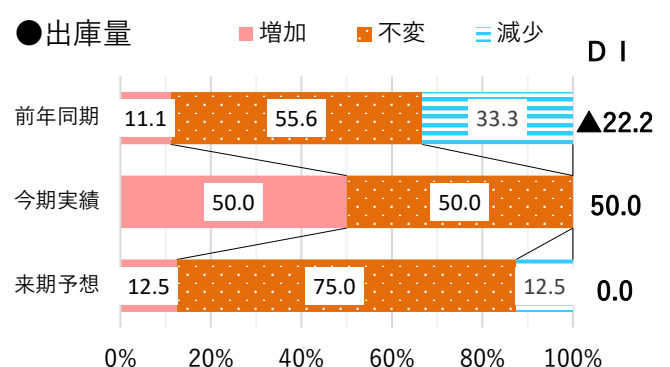
今期の入庫量DIは25.0で、前年同期と比べ47.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、入庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



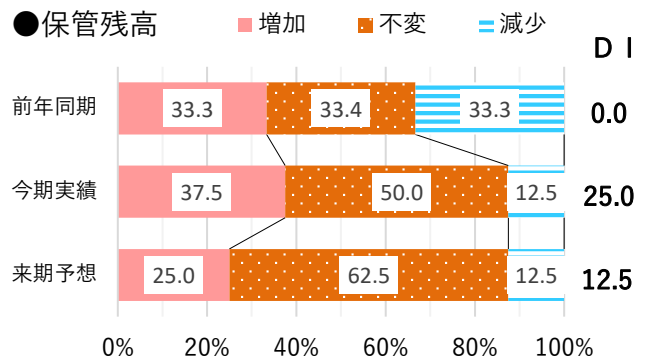
今期の出庫量DIは50.0で、前年同期と比べ72.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、出庫量の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは25.0で、前年同期と比べ25.0ポイント上昇しました。

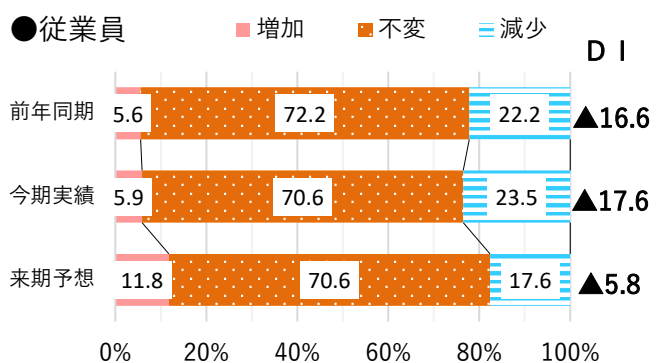
来期は、保管残高の増加傾向が弱まると予想しています。



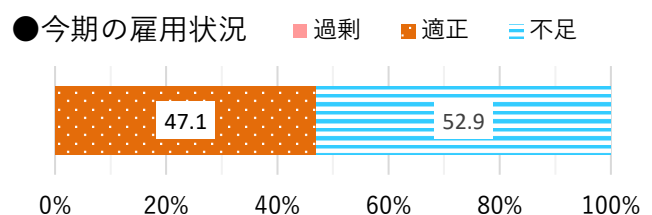
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.6で、前年同期と比べ1.0ポイント低下しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は47.1%、不足していると回答した企業の割合は52.9%でした。



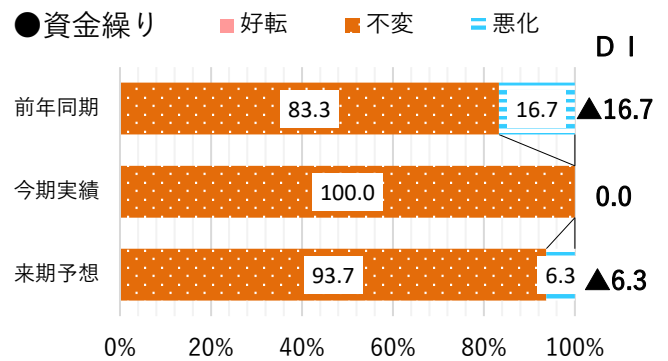
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、47.0%を占めました。回答全体では半数以上が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

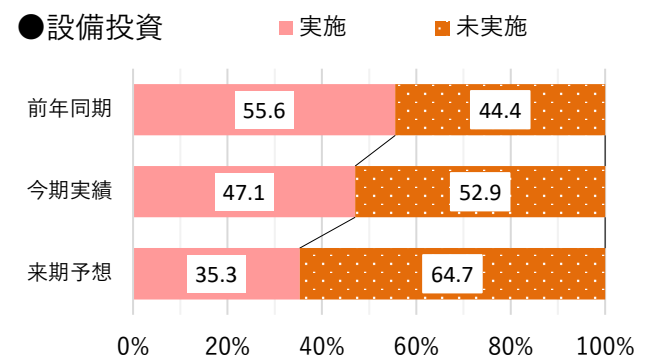
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ16.7ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



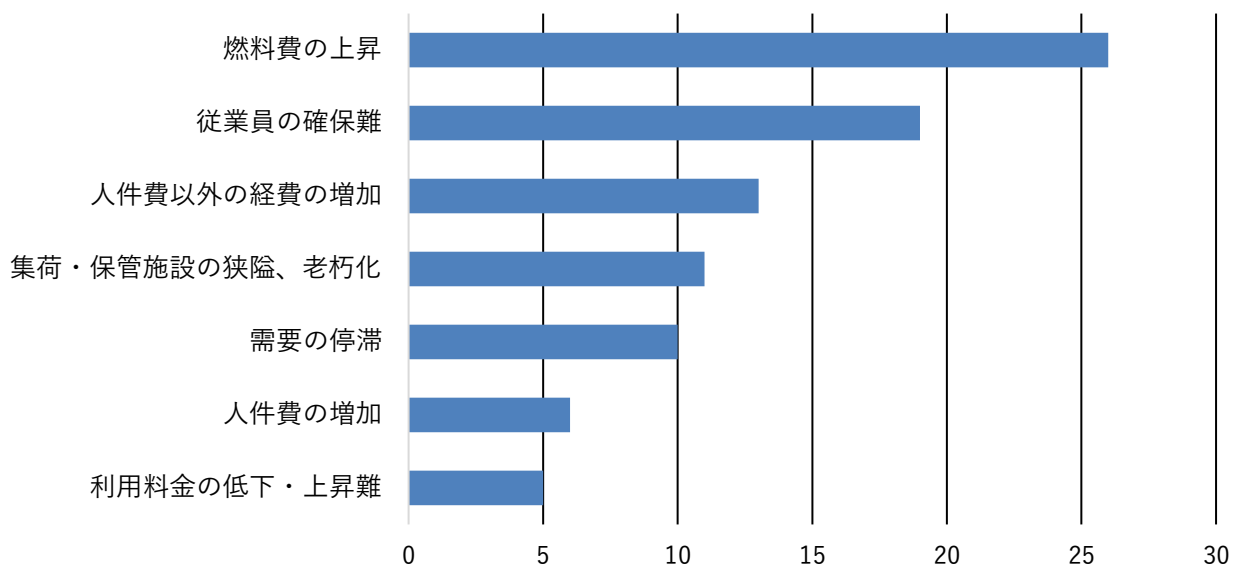
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は35.3%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 運輸部門は売上が減少し、燃料費高騰分を価格に転嫁できず利益が減少した。倉庫部門は米穀の消費減と豊作による余りを反映し、入出庫保管全て前期比で増加した。人材は管理部門の事務職、現場の担当者ともに確保できていない。(道路貨物運送)
- 売上が増加した。(道路貨物運送)
- 人材不足により稼働率が低下した。燃料費が高騰したため、運賃を引き上げた。(道路旅客運送)
- 売上は微増した。新型コロナウイルスの感染拡大により、客足は鈍い。(道路旅客運送)
- 仕入価格や人件費、諸費用の増加により採算が悪化傾向にある。(道路旅客運送)
- 貨物部門の業況は燃料油価格変動調整金の動向に左右される。(倉庫)
 - ※燃料油価格変動調整金：運輸事業者が燃料費の価格変動に応じてサービス価格に上乗せする料金
- 在庫量の減少に加え、出庫量が増加している。(倉庫)
- 新型コロナウイルス流行に伴う行動制限がなく、全国旅行支援が開始されたことで、旅客部門の売上は新型コロナウイルス流行前の8割程度の水準まで戻った。貨物部門は経済活動がまだ本格的でなく、物価が値上がりしているため動きが鈍く、悪影響が出ている。(水運)

[来期の業況について]

- 今期ほどではないが、売上の増加を見込む。(道路貨物運送)
- 今期同様、売上は微増を見込むが客足は鈍いだろう。(道路旅客運送)
- 地域経済の縮小による業況悪化を予想する。(道路旅客運送)
- 引き続き売上の増加を見込む。(道路旅客運送)
- 人材確保に取り組みたい。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少が予想される。(倉庫)
- 旅客部門は全国旅行支援の継続により、昨年同期比で売上の増加を見込む。貨物部門は物価上昇の影響により、荷動きが不透明だ。(水運)

観光業

業況、売上、採算

今期（2022.10～12）の業況判断DIは55.8で、前年同期(2021.10～12)と比べ98.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

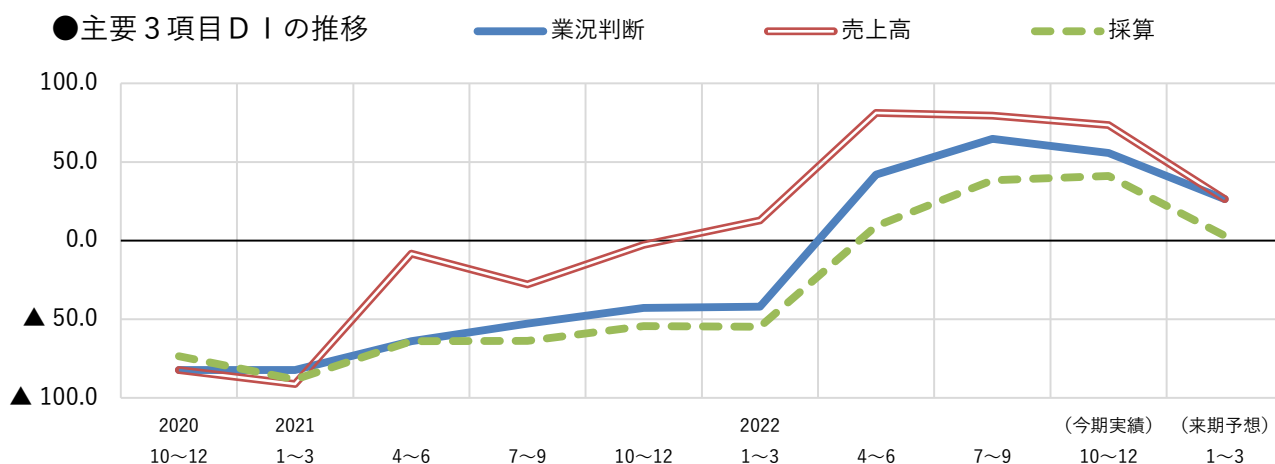
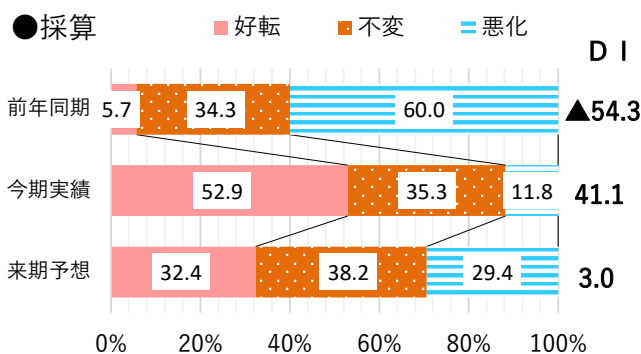
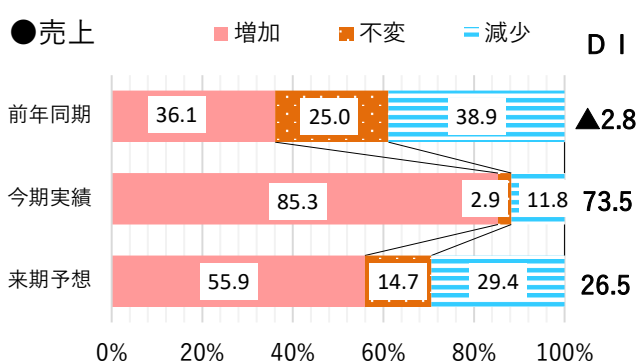
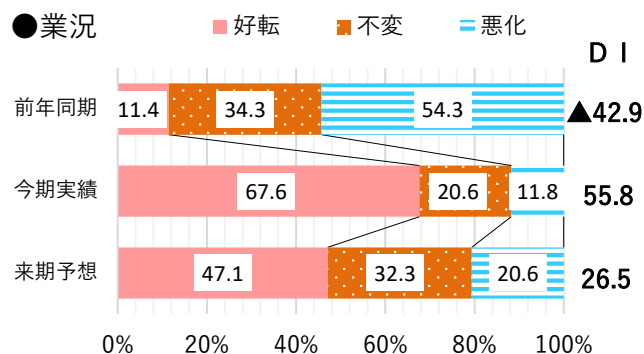
来期（2023.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは73.5で、前年同期と比べ76.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは41.1で、前年同期と比べ95.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

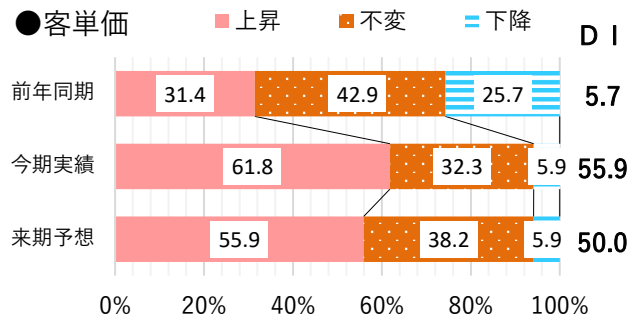
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

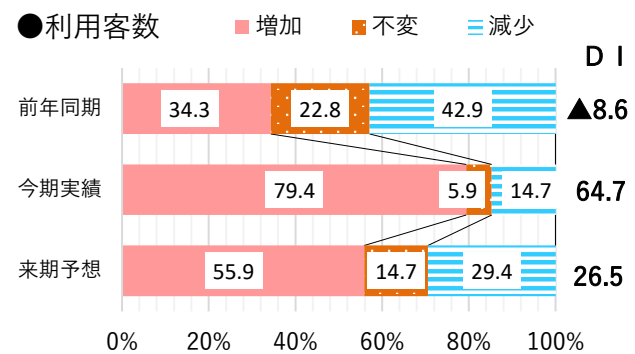
今期の客単価DIは55.9で、前年同期と比べ50.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



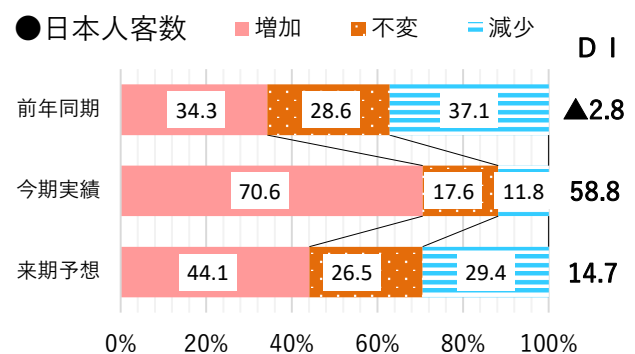
今期の利用客数DIは64.7で、前年同期と比べ73.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



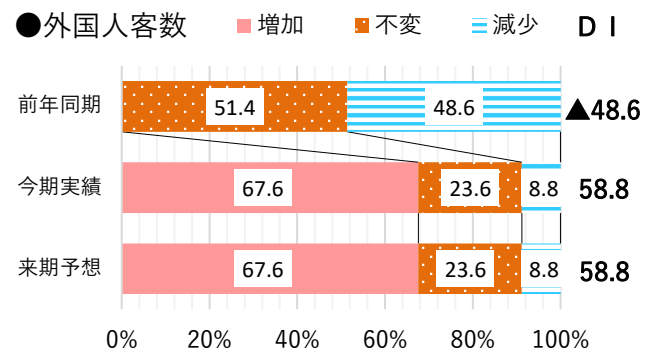
今期の日本人客数DIは58.8で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは58.8で、前年同期と比べ107.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

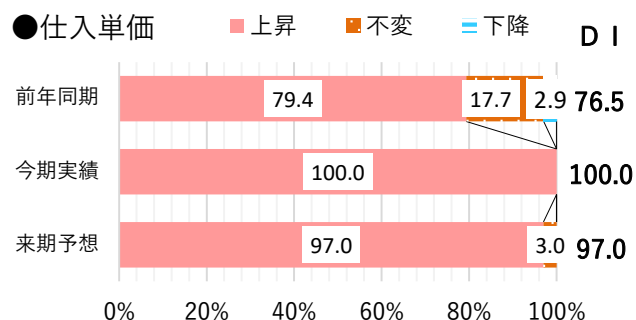
来期は、外国人客数の横ばいを予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ23.5ポイント上昇しました。

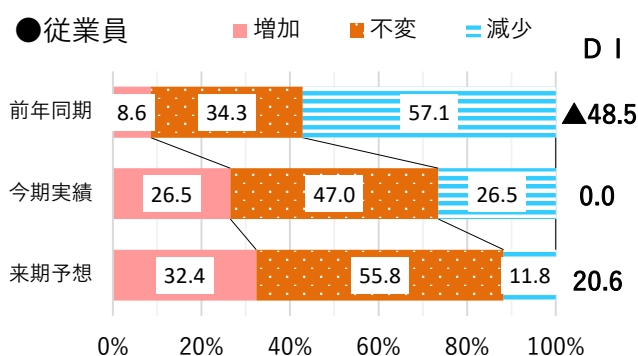
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



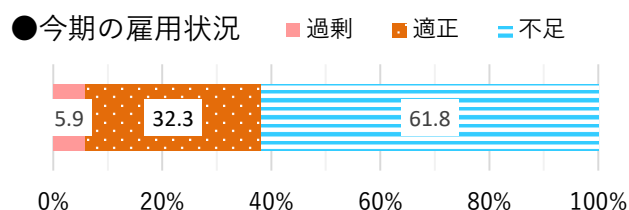
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ48.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は32.3%、不足していると回答した企業の割合は61.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、26.4%でしたが、回答全体では61.8%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	6
不変だった	過剰	2
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	9

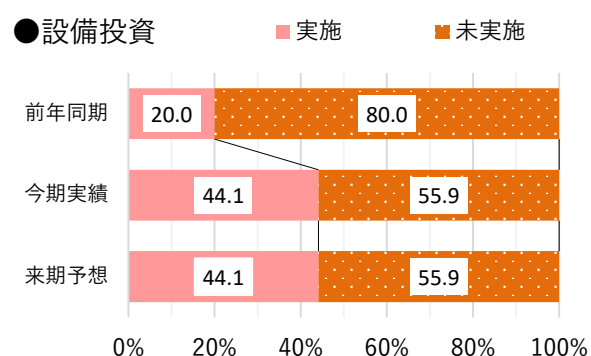
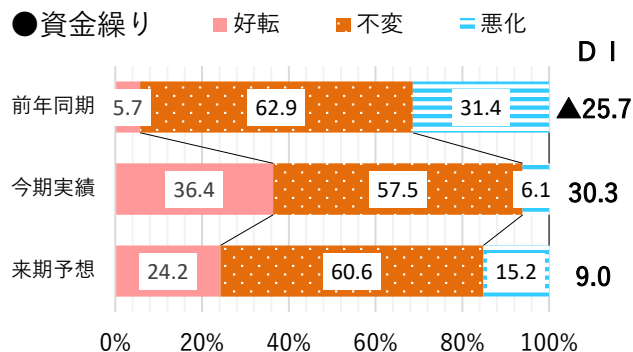
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは30.3で、前年同期と比べ56.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は44.1%で、前年同期と比べて24.1%増加しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.1%で、横ばいを予想しています。

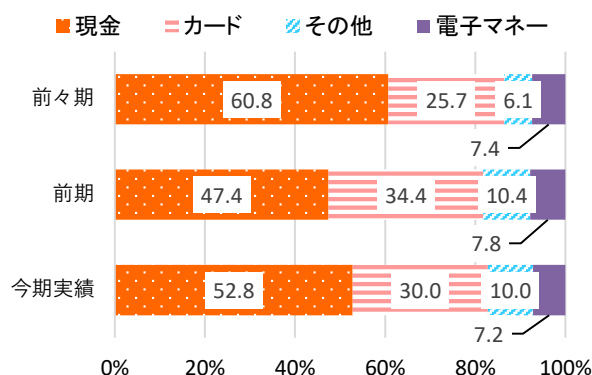


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で52.8%、2位がカードで30.0%、3位がその他で10.0%、4位が電子マネーで7.2%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、クーポン券、掛売り、QRコード決済、ポイント決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

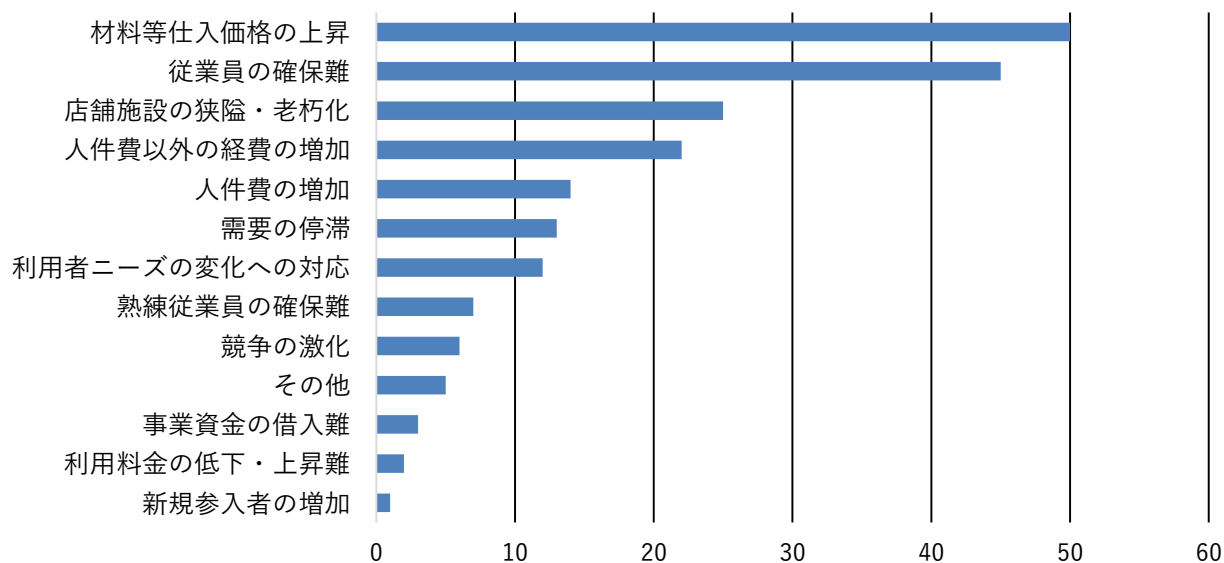


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンドの増加と、どうみん割や全国旅行支援による国内客の増加で業況は好転した。(ホテル)
- 旅行割やほっかいどう応援クーポン等の需要刺激策の効果で、業況は好転した。(ホテル)
- インバウンドは増加傾向にある。仕入価格は上昇した。人材不足が著しい。(ホテル)
- 施設改装中のため、売上が減少した。(ホテル)
- 全国旅行支援によって売上が増加した。インバウンドが増加傾向にあり、12月は特に増えた。将来の見通しが明るくなってきたと思う。従業員が不足しており、募集しても応募がない。(飲食店)
- 少しずつインバウンドが増え、売上がつながっている。国内観光客も新型コロナウイルスの流行前と同程度来ようになったので、コロナ禍前ほどではないが業績は回復している。(飲食店)
- 全国旅行支援のクーポン、とまっ得おたるのクーポンなど追い風があり、好調に推移している。仕入価格は続々と値上げしており、価格に転嫁している。(飲食店)
- 従業員の新型コロナウイルス感染、濃厚接触によって人手が不足し、休業や時短営業に切り替えた時期があったため、売上が減少した。(飲食店)
- インバウンドが来るようになったが、仕入価格の上昇が続き、厳しい状況に変わりはない。(飲食店)
- 外国人観光客が増加し、高額なメニューが売れているものの、利益は少ない。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かないと、明るい未来が見えない。(飲食店)
- 外出制限がなかったため、売上是順調だった。材料仕入価格が上昇した。(飲食店)
- お歳暮のシーズンのため、贈答品需要が増えた。(土産品)
- インバウンドが増加し、売上が増加した。(土産品)
- 観光客は回復しつつある。(土産品)
- インバウンドの増加により売上が好調だった。冬期のため、ニセコやキロロに向かう利用者も多く、売上が伸長している。(レンタカー)
- インバウンドが増加した。仕入価格が増加した。(レンタカー)
- 売上と客数は昨年同期比で5割程増加した。コロナ禍前の令和元年度同期と比べ、客数は0.91倍、売上は1.02倍だった。(水運業)

- 11月からインバウンドが増加し、売上は増加した。(船舶賃渡業)
- 売上の減少、人件費や各種コストの増加により業況が悪化した。(娯楽業)
- コロナ禍に伴う行動制限が解除され、全体的に好転した。(娯楽業)

[来期の業況について]

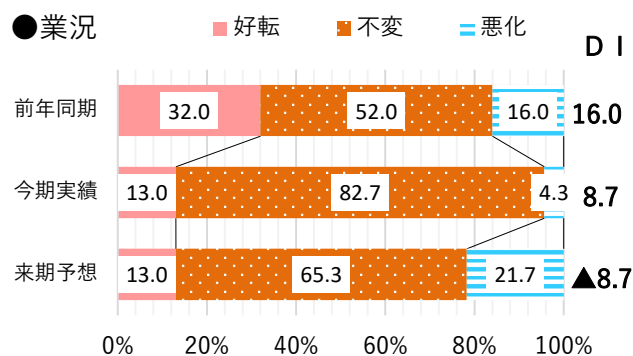
- インバウンドがどこまで増えるのか分からないが、宿泊客数は増える見込みだ。原価の高騰に対する価格改定が再度必要だと思う。人材不足が解消される見込みはない。(ホテル)
- 今期に引き続き施設の改装工事を予定しており、売上の減少を見込む。(ホテル)
- 外国人の入国制限撤廃によるインバウンドの増加に期待している。(ホテル)
- コロナ禍が終息し、元に戻ると思う。インバウンドが増えると日本人観光客が減る傾向があるので、土産物店は売上が増えると思うが、飲食店は見通しが立たない。(飲食店)
- インバウンドは少しずつ増えると思うので、業績も回復してほしい。(飲食店)
- 冬の観光シーズンに入るため、インバウンドはさらに増えると思う。(飲食店)
- 仕入価格の上昇が落ち着き、人材を確保できると好転が見込める。(飲食店)
- 消費マインドの冷え込みが心配だ。(飲食店)
- お歳暮のシーズンが終わり、売上は減少するが、春節に外国人観光客が増加すると思われる。(土産品)
- インバウンドの増加傾向が続き、業況は一層好転すると思われる。(土産品)
- インバウンドの増加が見込まれる。(土産品)
- 今期同様インバウンドの増加が見込まれる。さっぽろ雪まつりなど冬のイベントが開催予定のため、レンタカー利用の増加を期待する。(レンタカー)
- インバウンドと道外客の増加を想定している。(レンタカー)
- 客数が回復傾向にあるため、昨年度より増加すると思われる。(水運業)
- 雪あかりの路など、イベントによる日本人観光客の増加に期待している。(船舶賃渡業)
- 冬期営業開始による利用客数の増加が期待できる。(娯楽業)
- 冬期のため大きな改善は見込めない。(娯楽業)

サービス業

業況、売上、採算

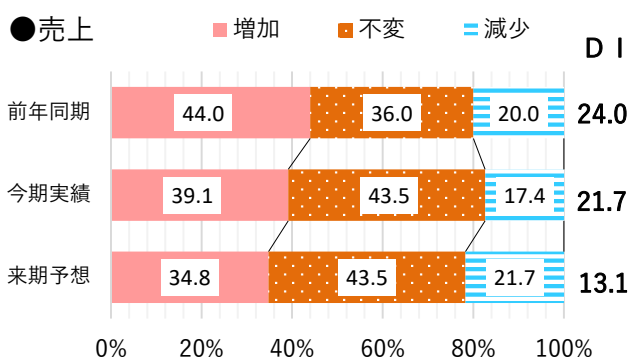
今期（2022.10～12）の業況判断DIは8.7で、前年同期(2021.10～12)と比べ7.3ポイント低下しました。

来期（2023.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



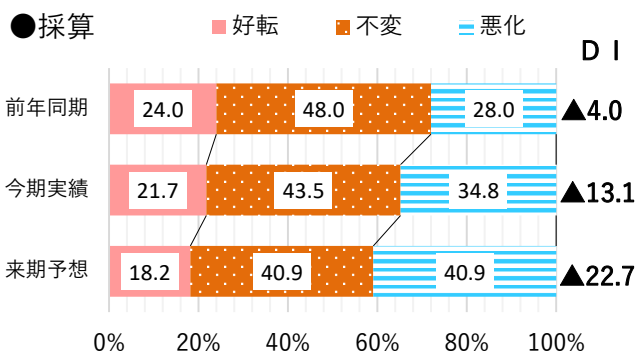
今期の売上高DIは21.7で、前年同期と比べ2.3ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

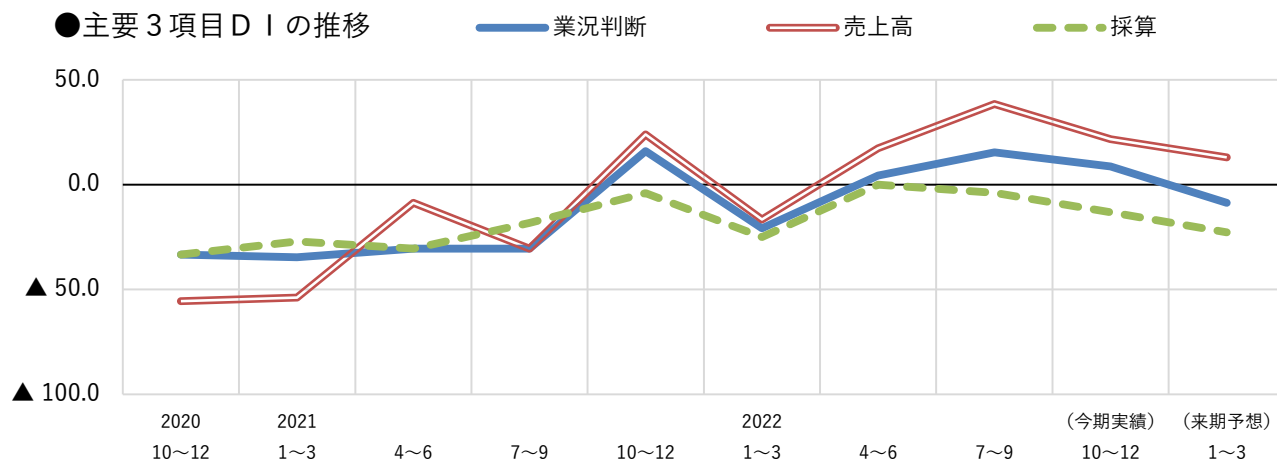


今期の採算DIは▲13.1で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



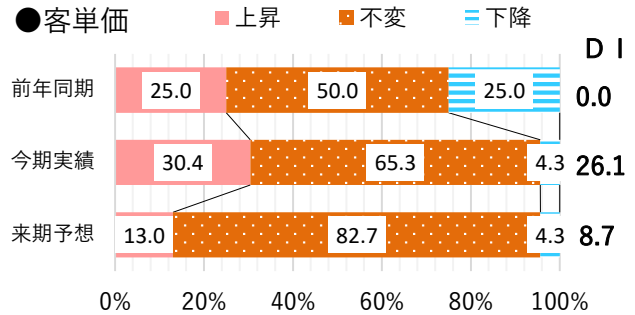
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

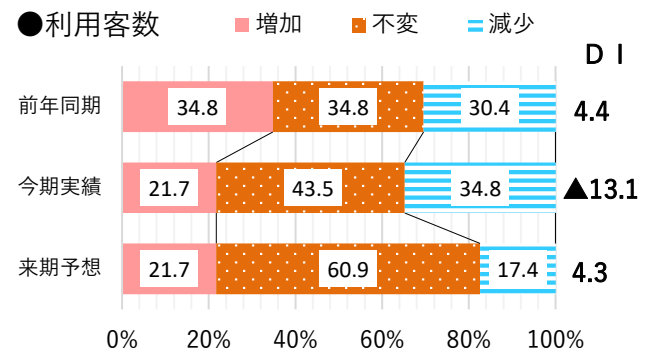
今期の客単価DIは26.1で、前年同期と比べ26.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



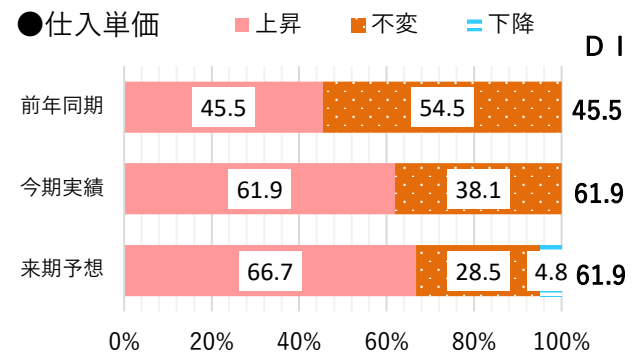
今期の利用客数DIは▲13.1で、前年同期と比べ17.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、利用客数がプラスに転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは61.9で、前年同期と比べ16.4ポイント上昇しました。

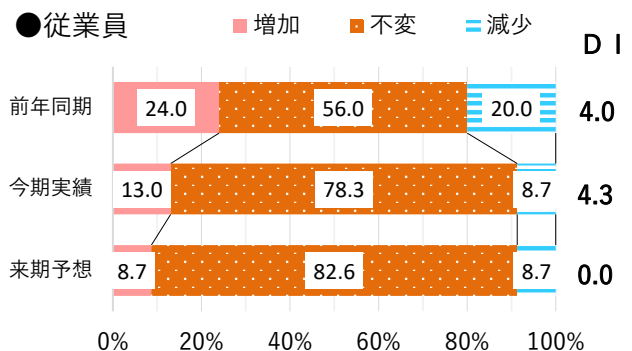
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは4.3で、前年同期と比べ0.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。

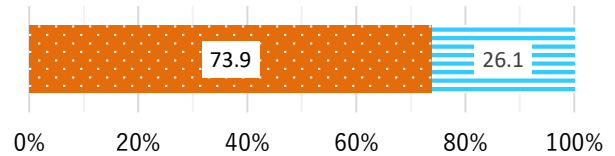


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.9%、不足していると回答した企業の割合は26.1%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、60.8%を占めました。

回答全体では、73.9%が適正数の従業員を確保できている状況にあります。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



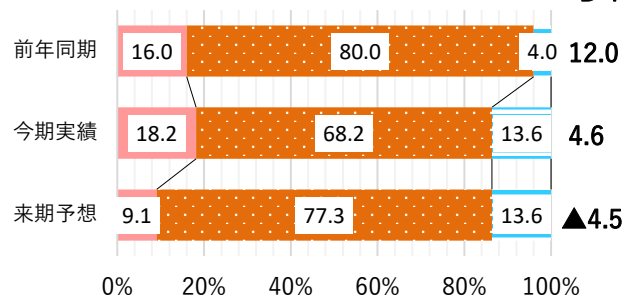
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	14
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは4.6で、前年同期と比べ7.4ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。

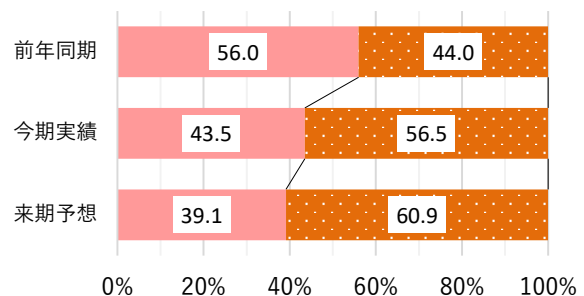
●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化



設備投資を実施した企業の割合は43.5%で、前年同期と比べ12.5%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

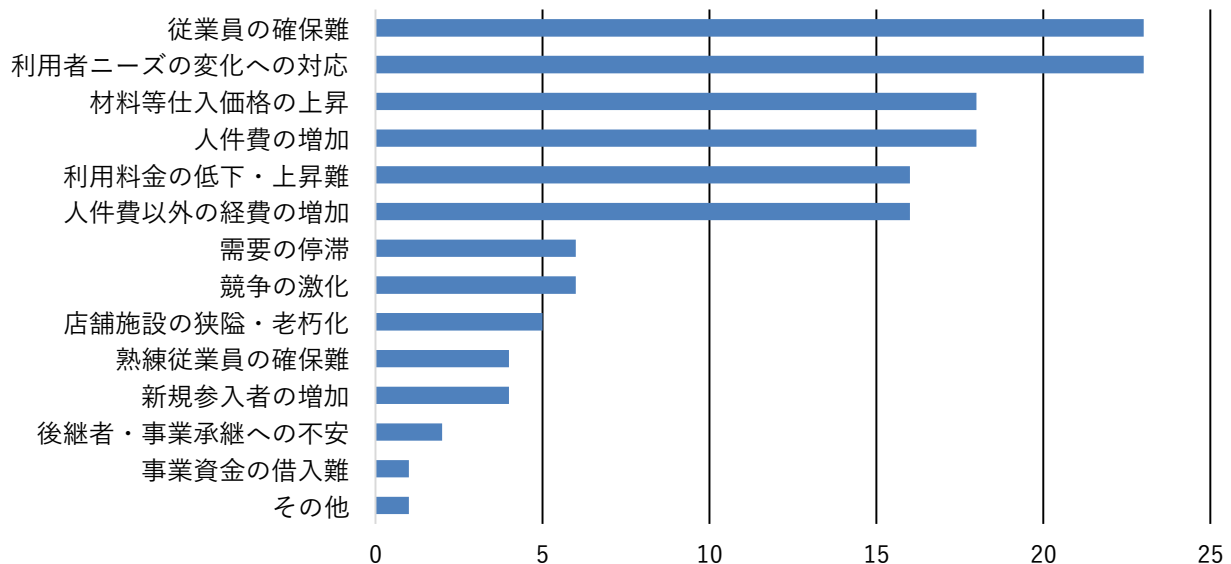
来期に設備投資を計画している企業の割合は39.1%で、減少を予想しています。

●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、「利用者ニーズの変化への対応」（同位）、2位が「材料等仕入価格の上昇」、「人件費の増加」（同位）、3位が「利用料金の低下・上昇難」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 利用客数、売上が順調に増加したが、材料やその他仕入単価の上昇により採算は厳しい。（飲食店）
- 昨年自社で引き受けた修学旅行客が、今年は一部他社引き受けとなり売上額が減少したが、本業以外の分野が好転し、業況は不変だった。（旅行代理店）
- 新型コロナウイルス流行の影響で客数は減少しているが、普段パーマとカラーを別々にされる方が、一度の来店で同時に注文されるので、客単価が上昇した。仕入価格は材料店のキャンペーンを活用し抑えることができたが、光熱費などの経費が負担になっている。（美容業）
- 最低賃金や仕入価格の上昇により、業況が悪化した。（ビルメンテナンス）
- 売上は増加傾向だが、電気料金等諸経費が増加した。（ビルメンテナンス）
- 前年同期比の売上額はほぼ不変だが、顧客に提供するサーバーがAWS（Amazonの子会社）、GCP（Googleのサービス）など海外勢に依存しており、米ドル決済のため円安の影響を受け、仕入価格が上昇し利益を圧迫した。現在のところ人材確保の予定はない。（情報処理・提供サービス業）
- 自社のセキュリティリスクに備えたい企業との取引が増えており、企業向け取引は今後も増収が見込まれるが、個人客は支出削減の傾向が強くて出ているため、減収に向かっていくと思われる。（保険業）
- 仕入価格の上昇と利用客数の減少が進行しており、業績は悪くなる一方だ。（写真業）

[来期の業況について]

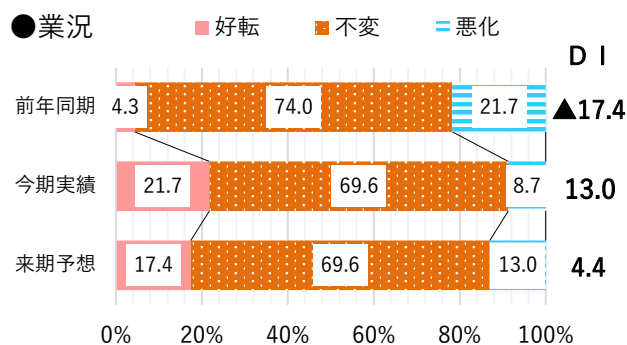
- コロナ禍のため、突然のキャンセルが多く不安だ。12月に仕入を増やしたため、1月は仕入価格が上昇しても心配ない。（美容業）
- 電気料金や原油価格、原材料価格の上昇による経費増加が見込まれる。（ビルメンテナンス）
- 今期は円安が一服し、若干円高方向に戻ったので仕入価格の上昇が抑えられているが、変動幅が大きく来期の予想は難しい。再度円安方向に推移し、仕入価格の上昇によって利益が減少すると思われる。会計年度末の駆け込み需要に期待している。（情報処理・提供サービス業）
- 借入の返済が始まるので、現在の売上高でいくと相当厳しい状況になる。（保険業）

建設業

業況、売上、採算

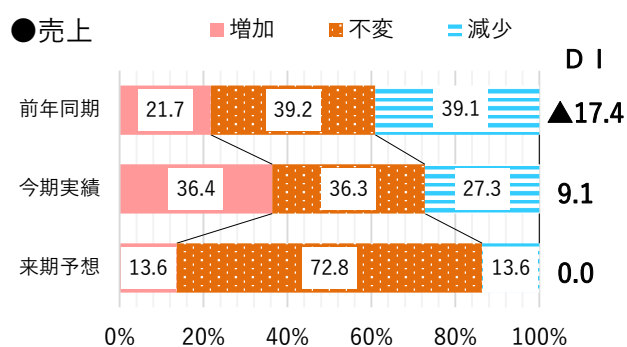
今期（2022.10～12）の業況判断DIは13.0で、前年同期(2021.10～12)と比べ30.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期（2023.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



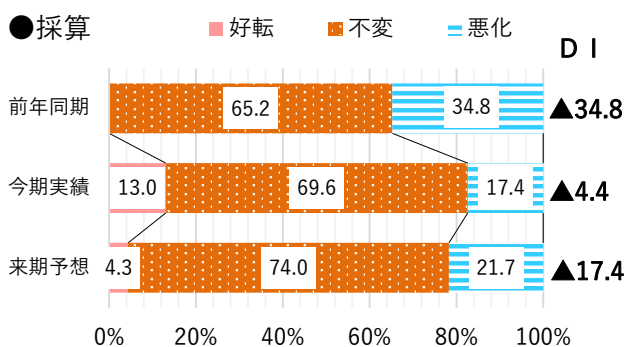
今期の売上高DIは9.1で、前年同期と比べ26.5ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

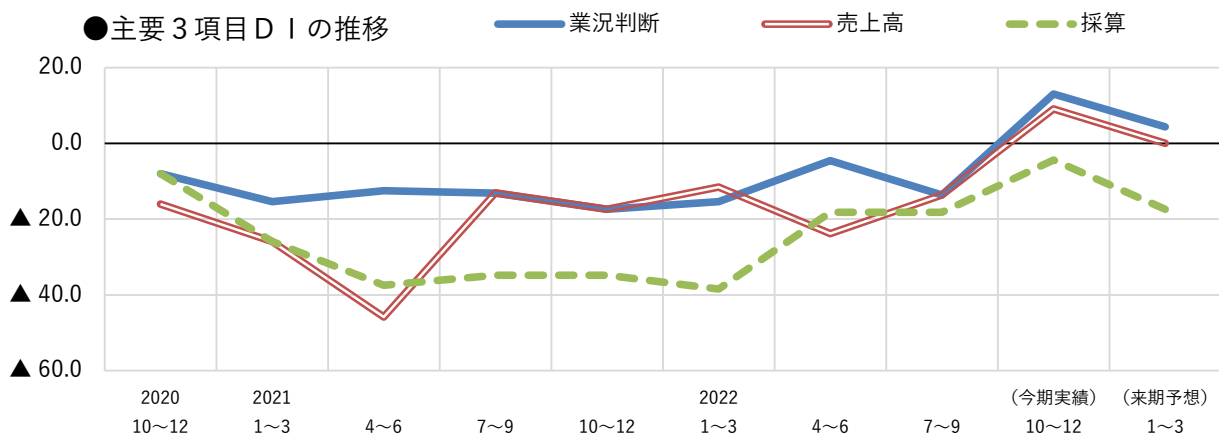


今期の採算DIは▲4.4で、前年同期と比べ30.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



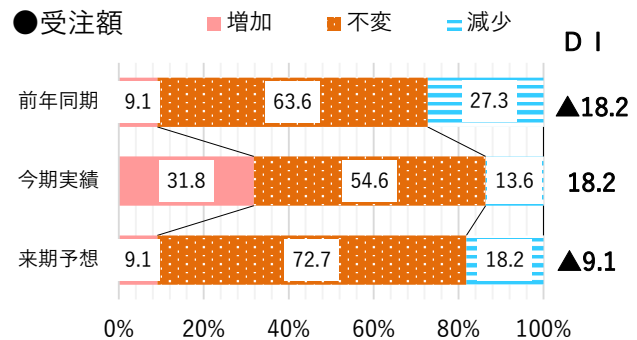
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

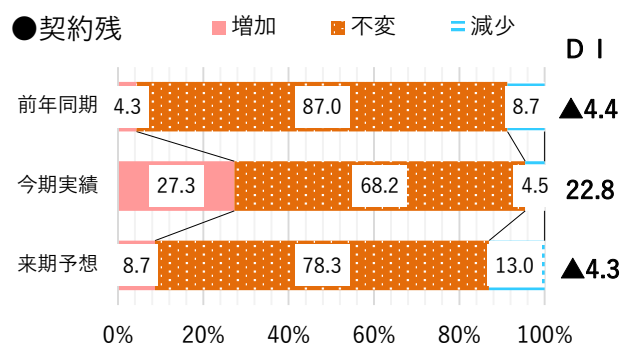
今期の受注額DIは18.2で、前年同期と比べ36.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、受注額がマイナスに転じると予想しています。



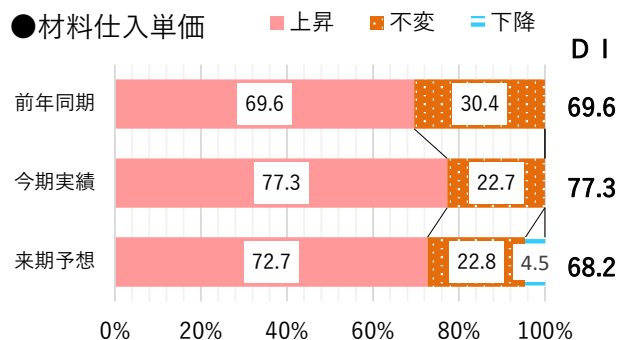
今期の契約残DIは22.8で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、契約残がマイナスに転じると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは77.3で、前年同期と比べ7.7ポイント上昇しました。

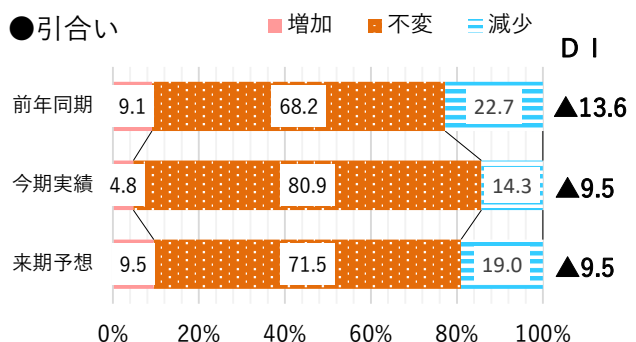
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲9.5で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

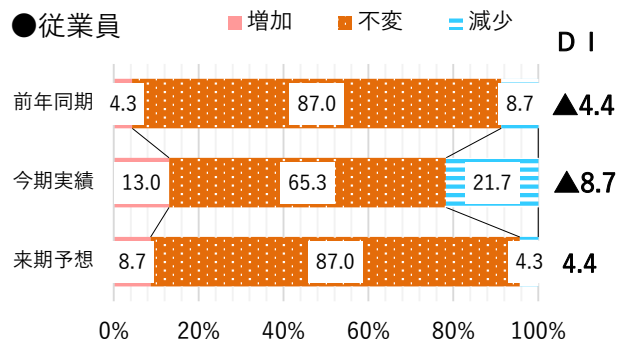
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



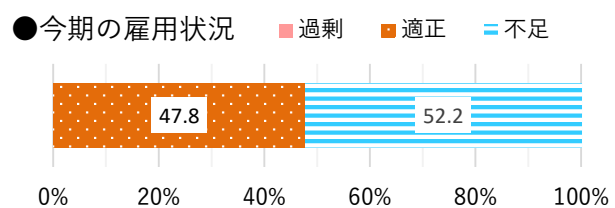
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.7で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は47.8%、不足していると回答した企業の割合は52.2%でした。



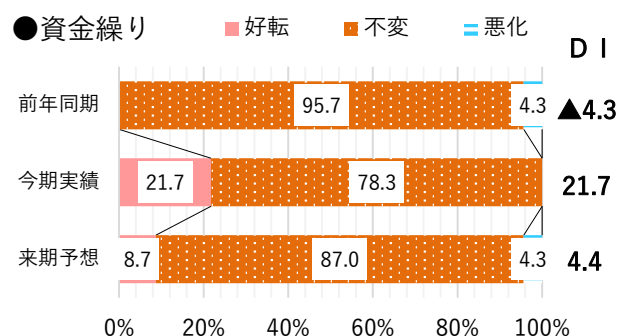
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、43.4%を占めましたが、回答全体でみると半数以上の52.2%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

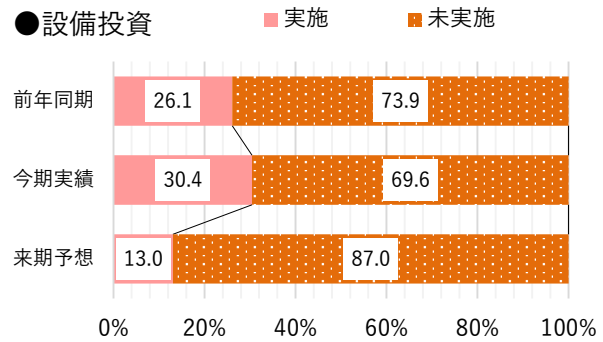
今期の資金繰りDIは21.7で、前年同期と比べ26.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



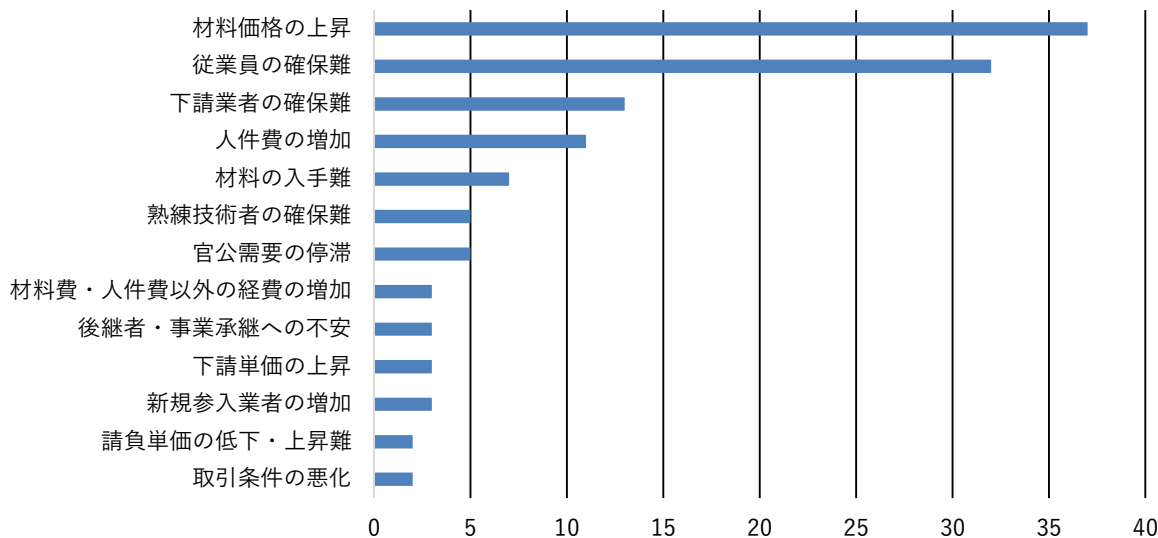
設備投資を実施した企業の割合は30.4%で、前年同期と比べ4.3%上昇しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は13.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「下請業者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 円安の影響が読みにくい。高騰する原材料価格と市場が求める販売価格のバランスを考えながら、仕入量を決定するのが難しい。(一般土木工事業)
- 売上は増加したが、仕入単価等の上昇により採算が悪化した。引き続き人材確保に力を入れたい。(一般土木工事業)
- 昨年同期の受注量は目標を下回ったが、今期は順調に目標分を確保できた。仕入の値上がり分も転嫁できている。(一般管工事業)
- 人材を確保できず、思うように仕事を受けられなかった。(職別工事業)
- 業況は悪化した。人材不足が課題だ。(職別工事業)
- 新規工事が2件あり、好調だった。従業員の高齢化が進み、若い人材を確保できていない。(造園業)
- 材料仕入単価の上昇により利益が減少しているが、社員の技術が向上しており、業況は良い方向に向かっている。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 従業員を確保したい。(一般土木工事業)
- 受注済工事の施工が主となっており、安定した利益を確保できる見込みだ。(一般管工事業)

- 人材不足が続くと思われるので、インドネシア人を3名雇用し、現在雇用中のベトナム人2名とともに働いてもらう予定だ。（職別工事業）
- 業況の悪化と人材不足が続く。（職別工事業）
- 今期のような新規工事の受注を見込めないため、売上は減少すると思われる。（造園業）
- 設備投資を計画していたが、材料費、燃料費の上昇により見合わせている。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2022年10月~12月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変
負債総額は9億7,000万円、前年同期比増加

	倒産件数		負債総額
	<u>1件</u>		<u>9億7,000万円</u>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 1件)		負債 +9億2,800万円 (前年同期 4,200万円)
■10月 アイスクリーム製造販売（負債9億7,000万円：既往のシワ寄せ）の1件が発生した。			
■11月 なし			
■12月 なし			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2022年10月~12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は51件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は39棟72戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	<u>51件</u>		<u>39棟72戸</u>
前年同期比	件数 -23件 (前年同期 74件)		戸数 -24棟29戸 (前年同期 63棟101戸)
※変更確認又は変更通知を除く。			